日本社会事業大学大学院

Graduate Schools of Japan College of Social Work

日本の社会福祉を先導する２つの大学院

実践力とマネジメント力の
向上を目指す

専門職大学院

福祉マネジメント研究科

社会福祉の課題を
科学的に解明する

研究大学院

社会福祉学研究科

GUIDE BOOK 2023

日本社会事業大学大学院

〒204-8555
東京都清瀬市竹丘3-1-30

代　　表　TEL.042-496-3000　FAX.042-496-3001
入試広報課　TEL.042-496-3080　FAX.042-496-3081
URL:https://www.jcsw.ac.jp

日本初の社会福祉の専門教育機関として福祉のリーダーを育成する2つの研究科

日本社会事業大学は、1946年、政府からの委託を受け
日本初の社会福祉・ソーシャルワークの
専門教育機関として創立されました。
ソーシャルワークをリードする人材の育成を目標に、
2つの大学院を設置しています。
高度な福祉専門職を養成する
「福祉マネジメント研究科(専門職大学院)」と
社会福祉学の実践的研究者を養成する
「社会福祉学研究科(研究大学院)」です。
日本の社会福祉の変革を志し、
目的意識と使命感を高く持つ方々に対して、
未来を見据えた新しい教育を提供します。

福祉マネジメント研究科

専門職大学院

福祉マネジメント研究科は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とした、わが国唯一の福祉専門職大学院です。人権の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重といった社会福祉の価値に基礎を置き、人々のニーズと社会の変化に対応し、実践の改革と開発を進め、社会の変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を育成します。

社会福祉学研究科

研究大学院

社会福祉学研究科は、複雑化してきている社会福祉問題、学際化してきている社会福祉研究に対応して、社会福祉学の理論化と社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めることを目的に設置されました。今日の社会福祉は、福祉現場での臨床実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、評価と研究を抜きには進められなくなっています。前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を、後期課程では、社会福祉実践の向上の発展に資することのできる高度の実践的研究者・研究的実践家・教育者を育成します。

▶CONTENTS

学長メッセージ/沿革 04
組織図 05
2つの大学院 06
教員×院生対談 08

福祉マネジメント研究科
(専門職大学院) 10
- カリキュラムの方針と構造 12
- 履修形態とキャリア形成支援 14
- 修了生インタビュー 16
- 教員紹介 18

社会福祉学研究科
(研究大学院) 20
- 博士前期課程(修士課程) 22
- 博士後期課程(博士課程) 24
- 修了生インタビュー 26
- 教員紹介 28

学費/奨学金など 32
入試概要 34
説明会/アクセス 35

学長メッセージ

一人でも多くの人びとが「よりよく生きる」ために社会福祉のリーダーを養成する大学として

日本社会事業大学
学長　横山　彰

日本社会事業大学は、第二次大戦直後の1946年に、政府からの委託を受けて、社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立されました。その戦前の源流は、1908年に設立された中央慈善協会と1924年に改組・改称された財団法人中央社会事業協会の社会事業専門家を養成する講習会・研究生制度にまで遡ることができます。

日本社会事業大学の誇りは、日本で最も古い社会福祉の専門大学として、政府から委託された大学としての使命をもって、日本の社会福祉をリードした人材を多数養成してきたことにあります。

少子高齢化とともに社会的孤立の問題を抱える日本社会では、コロナ禍で新たな日常へと変容したこともあり、多くの人びとが生きづらい状況におかれています。そうした状況にある人びとがそれぞれの考えに基づき「よりよく生きる」ために、他者を思いやる心をもった指導的な福祉人材を養成するという日本社会事業大学の使命は、今日ますます重要になっています。

こうした使命を果すために、日本社会事業大学は社会福祉学部に加え、大学院として社会福祉学研究科および日本で唯一の福祉専門職大学院である福祉マネジメント研究科を設置するとともに、通信教育科と附属子ども学園を設けて、総合的な社会福祉の大学として先進的な研究・教育体制を整えています。

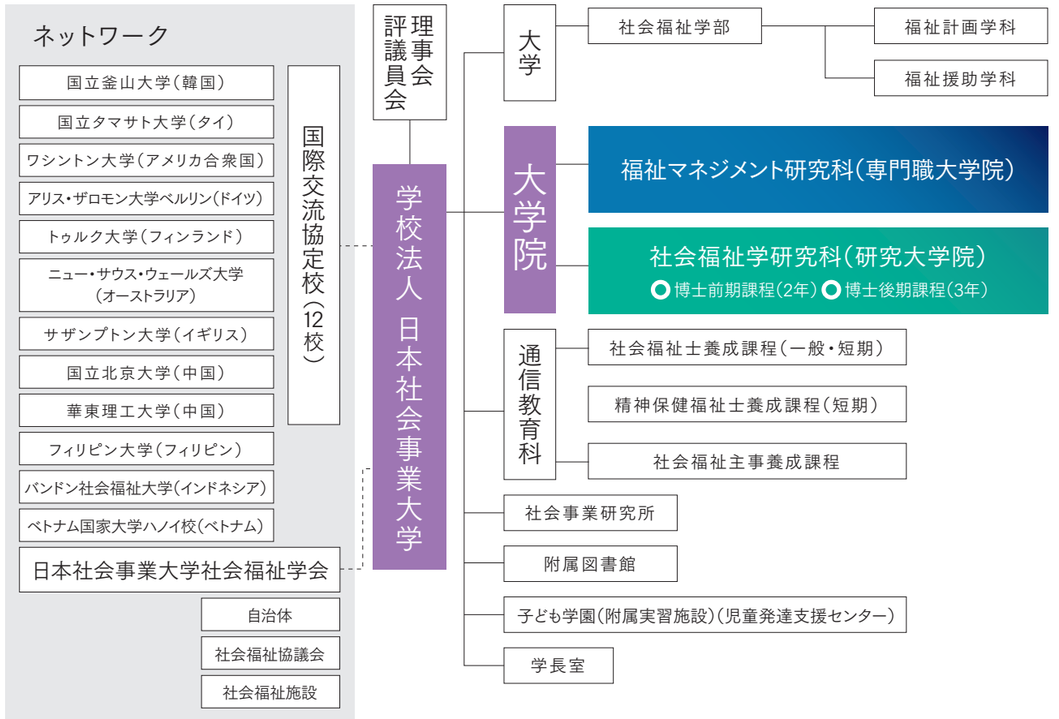
生きづらい状況におかれている人びとに温かい手を差し伸べたいと志す多くの皆さんが、本学で学び合い、幅広い世代の多数の先輩とのご縁のもと社会福祉のリーダーとなって、一人でも多くの人びとが「よりよく生きる」ために、お力を発揮していただくことを願っています。

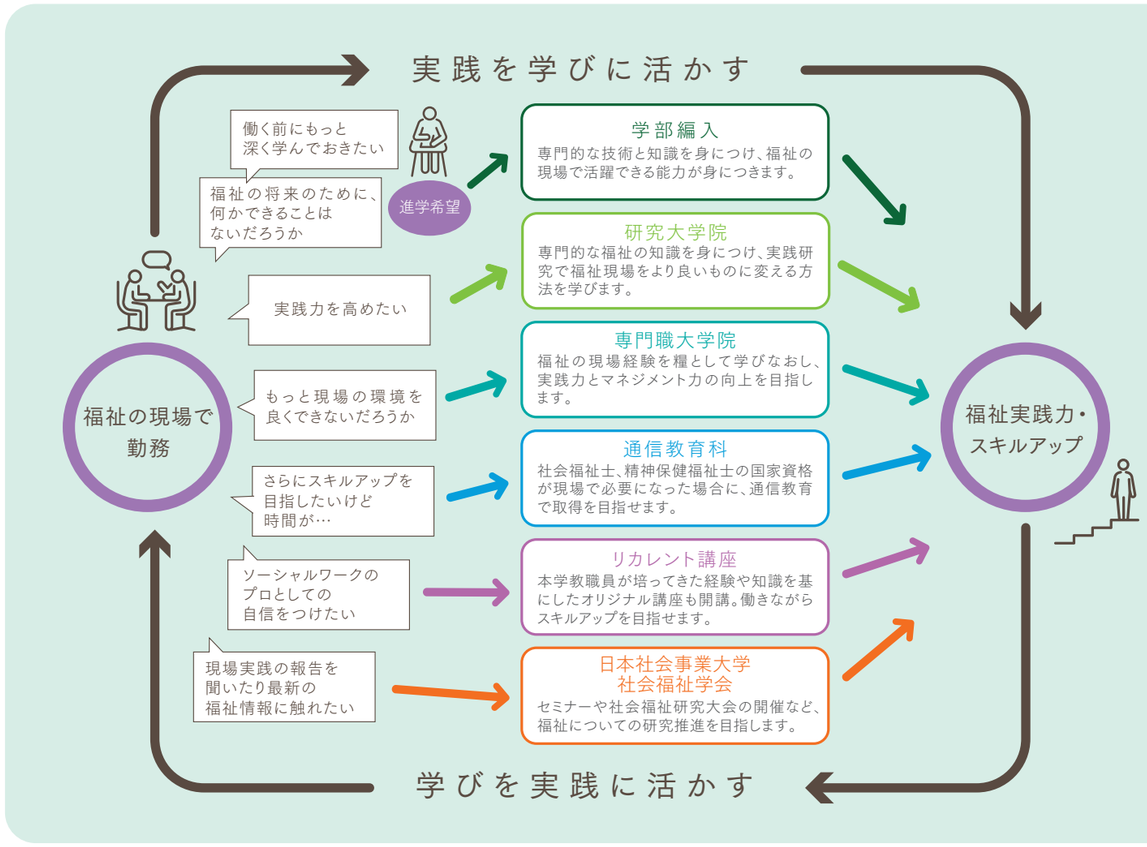
沿革

1908(明治41)年10月	中央慈善協会設立(本学の淵源)
1921(大正10)年3月	社会事業協会設立(中央慈善協会を改称)
1924(大正13)年3月	財団法人中央社会事業協会設立 (社会事業協会を改称)
1928(昭和3)年4月	社会事業研究生制度発足
1946(昭和21)年11月9日	日本社会事業学校創立 東京都牛込区原町に開校
1947(昭和22)年4月	財団法人日本社会事業協会設立 (財団法人中央社会事業協会を改組) 日本社会事業専門学校開校
1948(昭和23)年1月	東京都渋谷区原宿に移転
1950(昭和25)年4月	日本社会事業短期大学開学
1951(昭和26)年3月	学校法人日本社会事業学校設立 (財団法人日本社会事業協会を改組)
1958(昭和33)年4月	日本社会事業大学開学
1962(昭和37)年4月	学校法人日本社会事業大学設立 (学校法人日本社会事業学校を改称)
1989(平成元)年4月	東京都清瀬市に校舎移転 大学院社会福祉学研究科修士課程開設
1994(平成6)年4月	大学院社会福祉学研究科博士後期課程設置
2004(平成16)年4月	大学院福祉マネジメント研究科 専門職学位課程開設
2009(平成21)年4月	専門職大学院に 長期履修制度(2年履修)を導入
2013(平成25)年4月	附属実習施設「子ども学園」は 児童発達支援センターに改変
2016(平成28)年10月	社会事業研究所に 国際・アジア福祉研究教育センター設置
2016(平成28)年11月	日本社会事業大学 創立70周年
2017(平成29)年4月	ボランティアセンター開設
2018(平成30)年4月	学長室設置

組織図

2022年4月時点





2つの大学院

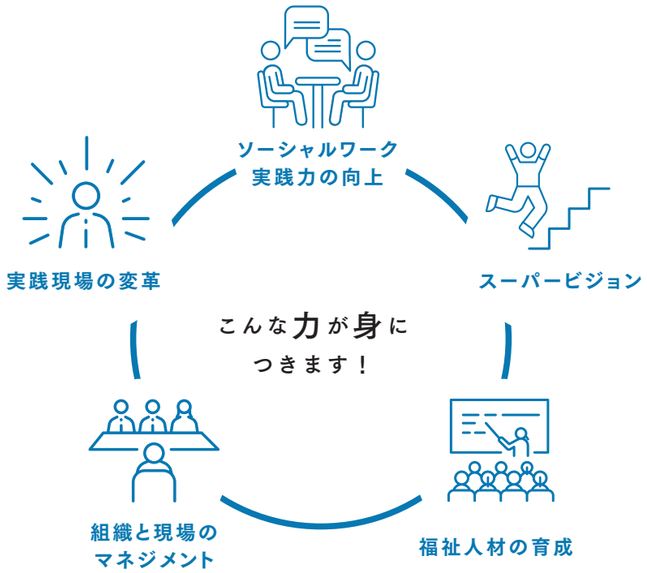
福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

▸ P.10～

こんな人にオススメ

- □ 支援のあり方を見つめ直したい
- □ 人材育成や福祉経営の基本を体系的に学びたい

など



実践研究を通じ
現場の最前線で求められる人に

社会が大きく変化するなかで、私たちは社会福祉を普遍的なニーズとして認識するようになりました。しかしながら、それと同時に、生活困窮、虐待、孤立、社会的排除、貧困の連鎖など、複雑で深刻な問題を抱える人々は増え続け、自らの実践と経験だけでは解決できない状況が次から次へと生まれています。

「分野を越えて学びたい」「これまでの実践を振り返りたい」「支援のあり方を見つめ直したい」「人材育成の方法を学びたい」「福祉経営の知識を体系的に獲得したい」。専門性を深め、視野を広げること。チームや組織を理解し、他機関との連携を進めること。これらのニーズに応え、高度な福祉人材を育成することが、福祉マネジメント研究科（専門職大学院）のミッションです。

社会福祉学研究科（研究大学院）

▸ P.20～

こんな人にオススメ

- □ 社会福祉に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を目指す
- □ 研究者・実践家を育てる教育者を目指す

など

こんな力が身につきます！

社会福祉援助方法を科学的に追求する能力

社会福祉実践プログラムを科学的に追求する能力

社会福祉制度・政策のあり方を科学的に追求する能力

社会福祉理論を科学的に追求する高度の能力

科学的研究を通じ
福祉現場をより良いものに変えられる人に

福祉に求められるものは時代とともに変わります。そこで必要となるのが、現状での課題をしっかりと捉え、さまざまな視点から検証し、将来に向けて新しい提案ができる専門家です。本大学院では、より良い社会福祉実践を実現するために、研究的な視点を持つ実践者、および実践的な研究者を育成しています。

博士前期課程（修士課程）

現代のさまざまな福祉ニーズを科学的に明らかにし、その解決に有効な援助方法や支援モデル、福祉制度・政策のあり方を追求する方法を身につけます。

博士後期課程（博士課程）

自立した研究能力を持ち、社会福祉実践の向上に役立つ研究を行って社会に影響を与えることのできる実践研究者および、実践の中で研究ができる人材を育成する教育研究者を養成します。

福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

教員×院生 対談

問題の本質に到達するまで妥協せず、研究的思考で追究する姿勢を修得。

木戸 宜子教授

＜主な研究分野＞
地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン

2年履修

砂原 聡子さん

公益財団法人 東京都保健医療公社
豊島病院　勤務
＜実践研究テーマ＞
感染症指定医療機関における新たなソーシャルワーク支援の展開
～入院一時保護委託の受託体制構築の取り組み～

砂原　医療機関のソーシャルワーカーをしていますが、コロナ禍で現場の体制が激変し、在学2年目に実践研究テーマを感染症指定医療機関における新たなソーシャルワーク支援に焦点化しました。

木戸　異例の事態でしたが、専門職大学院では現場経験を研究の題材にするため、むしろ今日的課題に即したテーマになりました。最終報告書は、現場の実際がとてもよく伝わってくる力作になりましたね！

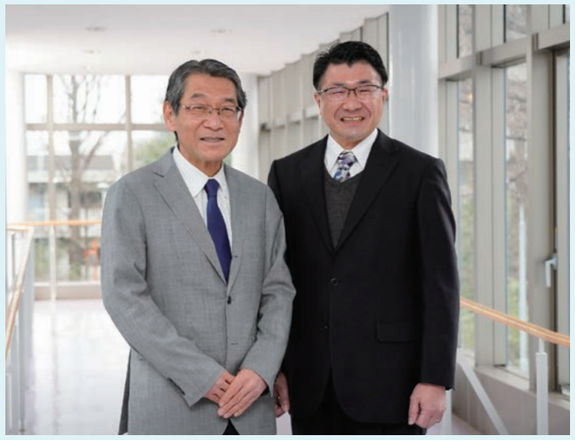
砂原　先生のご指導のおかげです。私は医療保険や福祉制度の細部に視点を置きがちでしたが、大局から問題を見据え、その本質へ的確に到達すること、それまで妥協しないことを教えていただきました。こうした視点や思考は、大学院だからこそ得られたと感じています。

木戸　現場での知見を表現するだけでは単なるエッセイです。それを、論理構成を持つ報告書や論文に昇華させるため、大学院では研究的思考を指導するんですよ。砂原さんにとっては、2020年の激変も研究意欲への原動力になったようですが、いかがでしたか？

砂原　先生からのアドバイスや指導により、現場で感じた疑問やジレンマに火がついたのだと思います。授業科目のレポート課題も、自分の考えをまとめ、人に伝えるための文章を構築する訓練になりました。その成果が、親が感染症になり子の養育に支障をきたす家庭の入院受け入れの仕組みづくりでした。実践研究はこれで終わりとせず、学会発表などにも取り組んでいきたいです。

※取材2021年3月

「自立支援の質向上」という研究目的を念頭に、院生と研鑽し合った１年間。



曽根 直樹准教授

＜主な研究分野＞
障害者福祉、障害者虐待防止、差別解消、成年後見制度、意思決定支援、共生社会の実現

1年履修

鹿山 雄志さん

社会福祉法人 蒼渓会 相談支援センター
カマラド　勤務
＜実践研究テーマ＞
精神科入院患者の退院支援モデルの構築
～地域と病院双方から読み解く地域移行支援実践～

鹿山　地元の基幹相談支援センターで障がいのある方の相談業務や、自立支援協議会の運営に従事しています。仕事と並行して国家資格も取得しましたが、経験だけで地域の体制づくりを行うのは心もとなく、福祉理論や実践論を体系的に学んで基礎固めをしたくて進学しました。

曽根　鹿山さんの思いはよくわかります。専門職大学院には現場で葛藤や限界を感じ、モヤモヤを抱えた人がたくさん入学されます。悩みの解消には、その根本を突き詰める思考が大切で、鹿山さんもそう思われたのではないでしょうか。

鹿山　はい。入学してみると、自分と同じように仕事で悩みを抱えた院生と一緒に研鑽し合えたことが何より有意義でした。先生から、実践研究報告書は「研究目的を常に念頭に置くこと」と指導されました。研究の動機を見直すことは、自己を見つめなおすことにつながり、精神科入院患者の多くが長期入院を続ける現状への問題意識にたどり着くことができました。

曽根　目的は院生自身の中にしかないので、明確になるまで支えるのが教員の役割です。鹿山さんが有意義に感じたように、院生同士が意見を交換し、共感し合えることが専門職大学院の魅力であり、私たち教員の役割は、議論を深めていくことだと思います。

鹿山　退院支援として地域移行のモデル構築を検討する中、地域移行部会会員への取材で、付き合いのある仕事関係者が持っていた問題意識や将来のビジョンに初めて触れ、その熱意に驚きました。こうした意識は積極的に共有し、今後も支援の質の向上について考察を深めていきたいです。

※取材2022年3月

社会福祉学研究科（研究大学院）

教員×院生 対談

研究の困難や壁を乗り越え、保健医療領域で実効性の高い具体策を目指して。

小原 眞知子教授

＜主な研究分野＞
ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域

博士後期課程

根本 貴子さん

学校法人上智学院　上智社会福祉専門学校　勤務
＜研究テーマ＞
がん相談支援センターの活用モデルの構築

根本　通算8年半にわたり急性期病院の医療ソーシャルワーカーを経験し、現場で感じた課題に対し研究を通じて改善を図れないかと考え、現場を離れて博士課程に入りました。2年目で教職に就いたので研究は長期戦に切り替えました。

小原　博士課程後期に進む院生は研究者を目指す人が多く、ゼミでのディスカッションはレベルも成熟度も格段に高いのが特長です。長期戦で臨まれている根本さんだからこそ、ゼミで触発されることも、研究について感じることも多いのではないですか？

根本　博士課程で日々思うのは、研究の難しさです。研究テーマの社会的意義、多様な調査・分析手法からの妥当な選択、合理的な分析と一貫性のある論旨が問われますが、どの段階においても判断に悩むことが多く、先へ進めていくのは簡単なことではありません。

小原　博士論文への挑戦は研究者の第一歩です。そのプロセスでは自分の弱さや浅さに何度もぶつかりながら、自身の責任と決断で書き上げていく作業であり、独自の研究哲学を創る行為でもあるので、本当に大変な世界です。私たち教員は根本さんをはじめとする次世代の研究者輩出もミッションですから、全力で支えていきますよ。

根本　ありがとうございます。先生のご助言を胸に、ここで学んだ研究手法を活かして博士論文を完成させます。そして、日々変化し続ける医療ソーシャルワークの現場に対応できるよう、実効性のある具体策を示せるよう努力していきたいです。

※取材2021年3月

学びの多いゼミや講義で自分を磨き、現場で理論的に考えられる支援者へ。

贄川 信幸准教授

＜主な研究分野＞
精神障害当事者と家族のリカバリーに向けた支援プログラムの開発と改善、実践家のエンパワメント

博士前期課程

小池 康太郎さん

日本社会事業大学大学院
社会福祉学研究科 博士前期課程1年
＜研究テーマ＞
精神障害の親をもつ子どもの実態と実施可能なアプローチ方法の検討

小池　学部時代に贄川先生のゼミで、理論的な思考で論を深める楽しさや、議論で新たな着眼点を得られるおもしろさを知り、研究に興味を持ちました。また、精神障がい者を親にもつ子への支援状況に関する卒業研究をさらに追究したいとの思いもあり、大学院進学を決めました。

贄川　小池さんはこのテーマに学部時代から熱心に取り組み、私も後押ししてきました。調査に際して、この研究が盛んな海外の文献も読み解き、わかっている事項といない事項を明確にすることが大切です。ゼミや定期的な個別指導にこだわらず、いつでも相談してくださいね。

小池　些細な相談事でも気軽に応じてくださり、いつも感謝しています。講義でも先生から多くを学びました。研究に必要な方法論は、修士1年目でも研究の枠組みや関心事への切り込み方が見えてきましたし、支援プログラムの評価方法や考え方は研究で大いに活かしました。

贄川　研究作法や具体的な方法論は、授業で議論しながら理解を深められることもあります。院生との議論を通して研究的視点を身に着けていくことで、実践現場でも役立つ研究につながることが期待されます。

小池　院生は多様な現場で経験を積んだ方ばかりなので、大学よりも視野の広い議論が展開され、新しい気付きが多い1年でした。修士課程後は精神保健福祉の現場で働いてみたいので、一貫した理論に基づく考え方ができる支援者を目指し、先生のご期待に沿えるように頑張ります！

※取材2022年3月

専門職大学院

福祉マネジメント研究科

社会福祉のあり方を見つめ直し
実践力に磨きをかけ、現場を変革し続ける

教育理念

日本社会事業大学専門職大学院は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とした、わが国唯一の福祉専門職大学院です。人権の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重といった社会福祉の価値に基礎を置き、人々のニーズと社会の変化に対応し、実践の改革と開発を進め、社会の変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を育成します。

求める学生像

福祉・保健・医療現場等で実践を積み重ねてきた方々、福祉人材の育成や管理に携わる方々、社会福祉実践の変革と開発に携わる方々を歓迎します。大学院生には、社会福祉の価値と倫理を重視し、自己と他者を人格を持つ個人として尊重できる人であることを求めます。

修業年限	1年(標準修業年限)	定員	50名
	2年(長期履修制度を利用する場合)	学位	福祉マネジメント修士(専門職)

専門職大学院の授業形態

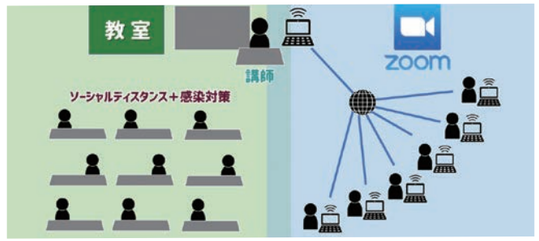
仕事を続けながら仲間とともに学ぶことができる

- 授業は木・金曜日夜と土曜日で実施します。
- 木曜日はオンライン授業のみです。
- 金曜日はオンライン授業が中心ですが、一部ハイブリッド授業(同時双方向型遠隔授業)があります。
- 土曜日は対面授業が中心ですが、一部、ハイブリッド授業があります。
- 演習は対面を原則としつつ、一定割合、オンラインで受講できます。

※同時双方向型遠隔授業とはオンラインと対面のどちらでも受講が可能な授業形態です。

※オンラインで受講する場合は、各自にてインターネット環境、ノートＰＣ等によるWebカメラ、マイクを用意していただく必要があります。

ハイブリッド授業の仕組み



Q&A

Q 研究大学院との違いはなんですか?

A 実践現場で働き続けたい人が学びます。

研究大学院は研究者の育成に重点を置き、専門職大学院は実践家の育成に重きを置いています。実践力とマネジメント力の向上を目指します。

Q 働きながら学べますか?

A 長期履修制度を整えています。

2年間で計画的にカリキュラムを履修できる制度です。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。

Q 専門実践教育訓練給付制度について教えてください。

A 学費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。

標準修業年限(１年)で修了する2023年4月入学生で雇用保険の加入期間等条件を満たした方が申請できます。給付額の上限は56万円です。

福祉マネジメント研究科8つの特長

1 実践力の向上を目指す

基本の再確認と最新の動向・技法を学び、
対人支援専門職としての実践力の向上を目指します。

2 マネジメントできる力の獲得

現場のサービス向上を図り、チームや組織を
マネジメントできる力の獲得を目指します。

3 組織のあり方等について振り返り言語化

事例研究やスーパービジョンを通して、
自身や所属組織のあり方等について振り返り言語化します。

4 認定社会福祉士の単位を取得

多数の講義が、認定社会福祉士の大学院ルートに位置づけられています。

5 1年間で修士(専門職)の学位が取得

最短で1年間、現職継続者で長期履修者の場合には2年間で、
修士(専門職)の学位が取得できます。

6 遠隔地でも仕事をしながら学べる

オンラインと対面を組みあわせたハイブリッド授業を導入し
北海道や沖縄など遠隔地からの入学者も増えています。

7 アクセスが便利

対面授業は、清瀬キャンパスと東京メトロ丸ノ内線
「茗荷谷」駅から徒歩5分の文京キャンパスで行います。

8 多様な仲間との出会い

多様な仲間との交流や自由で対等な議論を通して、
すぐに役立ち、生涯にわたるネットワークが築けます。

研究科長メッセージ

仲間や教員との対話を通じて、新しい時代の社会福祉を切り拓く

井上 由起子
福祉マネジメント研究科 研究科長

本学は日本で唯一の福祉専門職大学院です。相談援助職としてのスキルアップ、組織や現場のマネジメント、福祉人材の学習と育成、安寧な地域社会の実現。専門職大学院では、これらを体系的に学べるカリキュラムを用意しています。

普遍的な理論に触れ、ぶれない価値を身につける。自らの実践を振り返り、確かな教訓を得て、明日からの支援に活かす。様々な実践現場で働く仲間との出会いも本学の魅力の一つです。現場の第一線で活躍する実践者、彼らを支える管理職と経営者層、地域課題の解決を目指した社会的起業。高齢、障害、子ども、困窮、司法、住宅、学校、地域。分野や立場を超えて仲間と切磋琢磨し、視野や世界を広げ、ネットワークを育む。

私たち教員は、皆さんが安心して実践上の課題や職業的アイデンティティを開示し、自由闊達な対話と討論を通じて、支援上の悩み、苦しみ、そして喜びを分かち合いながら、専門職として成長していくための学びの場を整えることに力を注いでいます。ここで一緒に学びませんか。実践に裏打ちされた自由でしなやかな知を求めて。

カリキュラムの方針と構造

カリキュラムの方針

社会状況の変化に伴い、福祉現場の課題は多様化、複雑化しています。支援する側も複数の分野にまたがり、様々な制度の知識と、多職種・多機関と協働できる力が必要とされています。このような現状を踏まえ、人権の尊重と共生社会を担う人材養成を念頭に、実践力の向上や組織運営などマネジメント力の獲得を目指します。自らの実践を省察することを教育の中核に置きます。質の高い福祉実践に有益な知識や理論を獲得したうえで自らの実践を振り返り、記述し、概念化し、評価し、次なる実践に結びつける、このサイクルを意図的に展開できる人材の育成をカリキュラム方針に据えています。

カリキュラムの構造

福祉基盤系科目群：福祉専門職として修得しておくべき基礎知識や共通基盤を再確認します。

共生社会と分野専門系科目群：共生社会をふまえ、子ども家庭、障害者、高齢者、地域・医療の各分野の理論と事例から学びます。

福祉人材の育成と管理系科目群：ソーシャルワーク・スーパービジョン、人材育成、人と組織の理解の3分野の理論と実践を学びます。

実践研究系科目群：実践を言語化し、評価する力を養います。講義や演習で得た知識を活かしながら、自らの実践上の課題に取り組み、実践課題研究としてまとめます。

［2022年度参考］

実践研究系科目群

実践課題研究
- 専門演習 I
- 専門演習 II
- 実践課題研究 I
- 実践課題研究 II
- 実践課題研究III

実践評価
- 実践の省察と評価
- 実践研究方法論
- サービス管理論
- 福祉プログラム評価論総論
- 研究課題設定論

福祉人材の育成と管理系科目群

人と組織の理解
- 人的資源管理論
- 労働法規
- 職場のメンタルヘルス

人材育成
- 組織行動論
- チームマネジメント
- インタープロフェッショナルワーク
- 組織開発
- 福祉人材育成論

ソーシャルワーク・スーパービジョン
- スーパービジョン I
- スーパービジョン II

共生社会と分野専門系科目群

子ども家庭
- 子ども家庭福祉の理論と方法
- 児童虐待対応ソーシャルワーク
- 社会的養護実践論
- 保育ソーシャルワーク
- スクールソーシャルワーク
- 子ども家庭福祉分野事例研究
- 子ども家庭福祉研究

障害者
- 障害者支援の理論と方法
- 障害者の地域生活支援と協議会
- 発達障害の理解と支援
- 障害者支援分野事例研究
- 障害福祉研究

高齢者・医療
- 在宅療養支援の方法
- 認知症ケアの基礎理論
- 医療・地域ケア分野事例研究
- 高齢者支援・医療分野事例研究
- 高齢者保健福祉研究

共生社会
- 地域福祉と地域包括ケアシステム
- 居住福祉
- 司法福祉
- 共生社会の仕組みとデザイン
- 地域共生分野事例研究

福祉基盤系科目群

福祉基盤
- ソーシャルワークの価値と規範
- 成年後見と意思決定支援
- ジェネリックソーシャルワーク
- 福祉と疾病
- 社会保障総論

ソーシャルワーク方法論
- ソーシャルワークアプローチ
- ソーシャルワーク面接技法
- 家族システムズアプローチ
- ソーシャルワーク理論研究

福祉経営
- 福祉アドミニストレーション
- リスクマネジメント
- ニーズとイノベーション
- 福祉会計 I
- 福祉会計 II

研究大学院との合同授業

履修形態とキャリア形成支援

社会福祉領域は実践と学問の距離が近い分野です。専門職大学院では、仕事と学びの両立を積極的に支援する体制を整えることで、実践を学びに活かし、学びを実践に活かす、この循環を促します。長期履修制度、修了後の学びを支援する修習生制度、認定社会福祉士の研修認証科目などを整えています。

1年間 通常履修の流れ

1年次

- 4月 ● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
- 6月 ● 実践研究計画書提出
  前期の実践研究計画を提出する。
  ● 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）
- 9月 ● 実践研究中間報告会
  前期に取り組んだ実践研究について発表する。
- 10月 ● 実践研究計画書提出
  後期の実践研究計画を提出する。
- 1月 ● 実践研究報告書の提出
- 2月 ● 実践研究報告会
  実践研究を含めた学びの総括を発表する。
- 3月 ● 学位授与式（修了式）

標準修業年限は1年です。この場合、金曜日の午後に演習（年10回程度）があります。平日（木・金）の講義・演習はオンラインと対面（文京キャンパス）を中心に実施します。土曜日の講義と演習（年20回程度）は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。平日日中も学びにあてることができる方は、研究大学院の授業を履修・聴講できます。

〈1年履修例〉
平日6・7限の講義時間
清瀬キャンパス 18:00～21:10／文京キャンパス 19:00～22:10
オンライン 19:00～22:10

	月	火	水	木	金	土
1						講義
2						
3					演習	演習
4					10回	20回
5						
6				講義	講義	計30回
7						

※2022年度参考

2年間 長期履修の流れ

1年次

- 4月 ● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
- 6月 ● 実践研究計画書提出
  1年目の実践研究計画を提出する。
  ● 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）
- 1月 ● 実践研究中間報告会

2年次

- 6月 ● 実践研究計画書提出
  2年目の実践研究計画を提出する。
  ● 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）
- 12月 ● 実践研究報告書の提出
- 1月 ● 実践研究報告会
  実践研究を含めた学びの総括を発表する。
- 3月 ● 学位授与式（修了式）

仕事と学びの両立を支援するために長期履修制度を設けています。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。平日（木・金）の講義はオンラインと対面（文京キャンパス）を中心に実施します。土曜日の講義と演習（年15回×2年）は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。

〈2年履修例〉
平日6・7限の講義時間
清瀬キャンパス 18:00～21:10／文京キャンパス 19:00～22:10
オンライン 19:00～22:10

	月	火	水	木	金	土
1						講義
2						
3						演習
4						15回
5						
6				講義	講義	2年で30回
7						

※2022年度参考

修習生制度

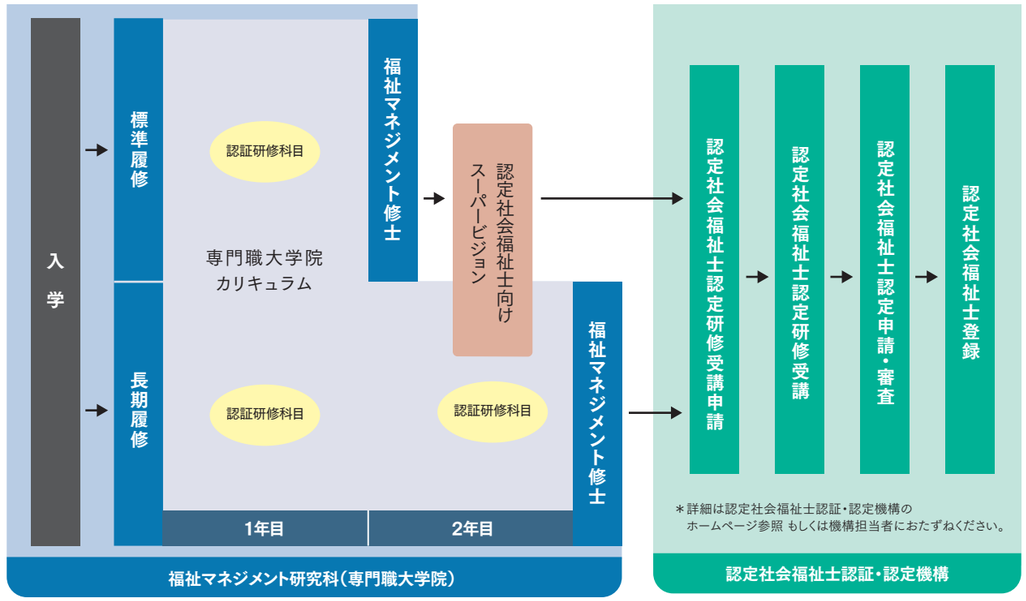
専門職大学院を修了後、手頃な費用負担で学びを継続できる制度です。講義の聴講が可能です。
1年更新で原則2回まで利用できます。専門職大学院修了後、一定期間、実践に集中した後に制度を活用することも可能です。

認定社会福祉士を目指す方を応援します

社会福祉士の上位資格として、認定社会福祉士が設けられています。本学専門職大学院で開講している授業のうち25科目は認定社会福祉士の研修認証科目として認められています（2022年度）。認定社会福祉士認証・認定機構は2020年度に、認定社会福祉士の取得ルートに「大学院（教育基幹）ルート」を新設しました。これにより、本学専門職大学院在籍中に、「大学院（教育基幹）ルート」で必要とされる18単位のうち、スーパービジョン（受）実績を除く16単位の研修認証科目を選択し単位修得することが可能となります。またスーパービジョン（受）についても、在学中もしくは修了後一定期間内において、本学スーパーバイザー教員に希望することができます。 ※認定制度の詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構ホームページでご確認ください。

本学での認定社会福祉士大学院（教育基幹）ルートへの対応

［2022年度参考］



※認定社会福祉士制度においては、研修実施機関として、①職能団体 ②教育機関（大学、大学院など） ③国及び地方公共団体（指定及び委託も含む）
④社会福祉法人及び医療法人等 ⑤その他の団体（営利法人を含む）などが想定されています。
※研修認証は「認定社会福祉士認証・認定機構」にて行われます。

※一部変更になる場合があります。

認定社会福祉士制度とは

高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして実践力を認定する「認定制度」で、「認定社会福祉士」及び「認定上級社会福祉士」の2種があります。「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正時に衆議院及び参議院で附帯決議された「専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」に基づき実施され、制度運営、研修実施団体の認証、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士の認証は、「認定社会福祉士認証・認定機構」にて行われます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構ホームページ
https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou

認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、所属組織を中心にした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することが認められた人です。

認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観を持って個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進などに関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた人です。

修了生インタビュー

※掲載されている内容は取材当時（2022年3月）のものです。

1 年履修

施設職員の人材定着に悩み大学院進学を決意 新たな課題も見つかり多くの収穫を得られた

2022年3月 福祉マネジメント研究科 18期修了生
社会福祉法人櫟会 勤務
三木 康史さん

高齢者分野の社会福祉法人の経営全般に携わっております。開設以来、どのようなマネジメントが、離職予防・人材定着につながり、魅力ある職場になるのかが悩みでした。その悩みを解決に導いてくれるのが「理念浸透」と考え、理念浸透が定着する方法を深く勉強したいと思い、専門職大学院の入学を決意しました。大学院では研究課題である「理念浸透」についてはもちろんですが、理論と実践を結び付けた幅広い分野の知識を学ぶことで、新たな課題が浮き彫りとなり、その解決方法を見出せたことも大きな収穫でした。さらに職種の異なる仲間と共に学ぶことで、自分自身の視座を高めることができました。

学問と仕事 両立ポイント

ゼミ生から刺激を受けて

私は福岡在住なので、オンライン授業の活用が学問と仕事を両立できた大きなポイントと感じています。とはいえ対面によるゼミ生との対話はとても貴重で、様々な年代・職種の方と一緒に勉強したいという気持ちがモチベーション維持につながり、最後まで続けられたと思います。

1 年履修

実践の言語化が鍵 未経験の分野を学び 現場で活かせる 知見を得る

2022年3月 福祉マネジメント研究科 18期修了生
社会福祉法人福光会 子どもの園 勤務
清田 和也さん

社会的養護を取り巻く環境の変化にともない、私の職場でも利用者の生活の維持や、理念の実現が困難な状況が続いています。これらを打開する糸口が「実践の言語化」と考え、専門職大学院の門を叩きました。大学院では未経験の領域も積極的に受講しました。さらに実践研究をまとめる過程やゼミ生との議論のおかげで、自身の実践力は間違いなく向上したと思います。特に多岐にわたる分野の方々が横断的に対話し、学びを深める時間はとても有意義で、大きな刺激となりました。学んだ知見はあらゆる実践場面で活かされてると感じています。

学問と仕事 両立ポイント

あたたかい職場の理解

職場の勤務形態は「出勤・退勤」しかありませんでしたが、大学院進学にあたって相談したところ「早番」や「遅番」を取り入れてくれました。また学事のある土曜日に休暇をあててもらうこともありました。学問を最大限優先してくださったおかげで両立ができました。

2 年履修

自身の振り返りも 新たな知見も 専門職大学院の仲間と 得ることができました

2022年3月 福祉マネジメント研究科 17期修了生
医療法人社団厚仁会 秦野厚生病院 勤務
菊地 祐子さん

精神科病院に勤務し27年。専門職としての自身を振り返る必要性と、マネジメント業務についての知見を広げたいと思い進学を決意しました。大学院では専門分野の学び直しはもちろん、マネジメント理論やスーパービジョンによる学びは、どれも自身の実践や環境を振り返る良い機会となりました。実践研究では、ソーシャルワーカーがエンパワメントされる人材育成の要素とはどのようなものかについて、職場の仲間と共に新たな取り組みにチャレンジしながら、検証しました。ゼミの仲間と意見交換をしながら分析して得た知見を、職場で活かしていきたいと思います。

学問と仕事 両立ポイント

家族の協力に感謝

私が学びを続けることができたのは、家事・育児に対する夫の協力がありました。子どもたちは戸惑うこともあったようですが、学びの楽しさを伝えることで、応援し協力してくれるようになりました。家族が学業と仕事の両立を支えてくれたことに、心より感謝しています。

2 年履修

理論に基づく実践と 多様性を受け入れることで 職場環境をより良くしたい

2022年3月 福祉マネジメント研究科 17期修了生
千葉県 浦安市役所 勤務
梅澤 裕子さん

管理職として、マネジメント能力や人材育成のスキルが足りないと行き詰まっていたところ、研修会で専門職大学院のことを知りました。理論と実践を結び付けることで成長できたらと、門を叩きました。職場では、職員それぞれ考え方が異なります。指導する立場として難しい問題にも直面してきましたが、授業やゼミで様々な職域の方との意見交換や助言をいただき、理論に基づいた幅広い視点の大切さを知りました。保健師の専門性とは何かを理解し、多様な価値観を受け入れる寛容さを身につけることで、職場の環境向上、延いては市民の皆さんの健康づくりにつながればと思います。

学問と仕事 両立ポイント

先生や仲間、家族のおかげ

通学時間がないオンライン授業の日は、残業があっても出席することができました。また長期履修を選択したことで無理なく学べたのも、両立のポイントだと感じています。なにより大学院の先生や仲間の支えと、職場や家族の理解があったことが、最後まで続けられた理由だと思います。

実践研究テーマ

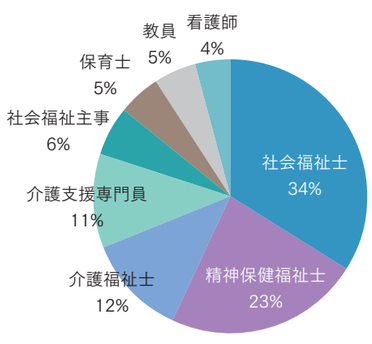
近年のテーマの一部を紹介します。大学院生は、講義で得た理論や解釈を用いて自らの実践を省察し、抽出された新たな課題に意図的に取り組みます。この一連の過程が実践研究です。

〈2021年度〉

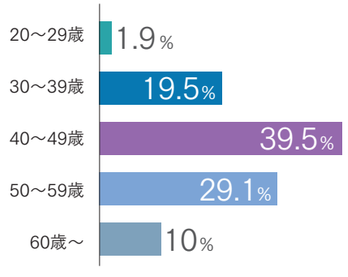
- 就労に消極的な生活保護受給者の就労支援について
  ～効果的な支援方法や要因について考察する～
- 居場所事業の意義に関する考察
  ～若者の就労支援に必要な機能とは～
- 精神科病院におけるソーシャルワーカーの人材育成に関する一考察
  ～キャリアラダーとグループスーパービジョン導入の効果～
- 高齢者施設における地域福祉活動を組織として実践する仕組み構築の実践研究
  ～民間企業が運営する高齢者施設の実践を踏まえて～
- 高齢者の終末期に患者家族等が療養上の意思決定をする際のSWの支援のあり方について
  ～地域包括ケア病棟・療養病棟での支援を通じて～
- ソーシャルワーカーが法を使いこなせるようになるために
  -児童相談所配置弁護士としての取り組みを通じての考察-
- 障害者雇用での障害者支援を行う職員への支援
  ～特例子会社における一般職員と障害者職員の相互理解を深めるために～
- ピアサポートの原理に基づくピアスタッフの支援の考察
  ～当事者研究を活用してより良い支援を実践する～
- 児童養護施設A園の支援を言語化する
  ～強みと課題を明らかにする～
- 高齢者への意思決定支援の現状・在り方について
  ～現場における支援者の実践と社会福祉士後見人の役割を考察する～
- 子ども家庭福祉を担う心理職の育成に関する取組み
  ～体系的研修プログラムの検討と作成～
- A市における軽度発達障害者のライフステージを越えた繋がる支援の形を探る
  ～キャリア発達支援に視点をおいて～
- 居宅介護支援事業所管理者の担う業務の明確化と力量の標準化に向けて
- 地域の受け皿としての 24 時間緊急一時保育事業の意義を考える
  ～26 年間の実践を通して、これからの子育て支援を考える～
- 特別養護老人ホーム介護職員の帰属意識の考察
  ～組織マネジメントを通じた魅力ある職場づくりに向けて～

入学者DATA

［保有している資格］ ※2022年度入学者

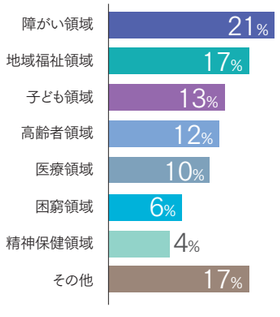


［年代別］ ※2018年度～2022年度入学者



修了者DATA

［領域別］ ※2021年度修了者



教員紹介

［担当科目は2022年度開講科目］

※専門演習Ⅰ・Ⅱ、実践課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
「SW」はソーシャルワーク、「SV」はスーパービジョンの略です。

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

■ 井上 由起子 研究科長 教授

【担当科目】
※／実践の省察と評価／サービス管理論／組織行動論／チームマネジメント／人的資源管理論／居住福祉／福祉会計Ⅰ・Ⅱ

住宅と福祉がクロスする領域を専門とし、本学では人材育成、サービス管理、チームマネジメントなどを担当しています。実践力の向上に資する組織やチームのあり方について、理論と実践を紐づけながらディスカッションし、切磋琢磨できる学びの場の構築を目指しています。

略　歴

1990年、日本女子大学卒業。清水建設勤務を経て、横浜国立大学工学研究科修了。博士(工学)。2001年、国立医療・病院管理研究所 主任研究官。組織再編により国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官。2012年より現職。一級建築士、社会福祉士、宅地建物取引士。

主な研究分野

高齢者福祉、居住支援、高齢期の住まい、福祉人材育成、福祉経営

■ 木戸 宜子 教授

【担当科目】
※／実践の省察と評価／実践研究方法論／SVⅠ／ジェネリックSW／インタープロフェッショナルワーク／医療・地域ケア分野事例研究／SWアプローチ／家族システムズアプローチ／SWの価値と規範

昨今、ソーシャルワーク実践、スーパービジョンが注目されてきています。実践者として専門性を高めるには、実践のふりかえり、意味づけが必要です。そのために実践の根拠としてのソーシャルワーク理論・アプローチを重視し、実践内容を客観的に分析し・考察する視点を養っていきたいと考えます。

略　歴

1989年、日本社会事業大学卒業。社会福祉士。1990年、国立東京病院ソーシャルワーカーとして勤務。2002年、日本社会事業学校研究科専任教員。2003年、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。2004年、日本社会事業大学専門職大学院助教授を経て現職。

主な研究分野

地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン

■ 曽根 直樹 准教授

【担当科目】
※／障害者支援分野事例研究／障害者支援の理論と方法／障害者の地域生活支援と協議会／共生社会の仕組みとデザイン／成年後見と意思決定支援／特別講義Ⅰ(当事者の語りから感じ・学ぶ)

現場で苦労していると、障害福祉サービスを提供することが目的となってしまうことがあるように感じます。様々な制度や福祉サービスは手段であり、目的は、基本的人権を尊重することです。目的と手段を間違えないことを大切にしながら、共生社会の実現をともに目指しましょう。

略　歴

1982年、文教大学教育学部卒業。2020年、東洋大学大学院ライフデザイン学研究科修士課程修了。社会福祉士。埼玉県社会福祉事業団、社会福祉法人昴、東松山市社会福祉協議会で、障害児・者の入所施設、通園施設、グループホーム、相談支援事業等の現場職員、管理職を経験した後、2012年、厚生労働省障害福祉課・専門官を経て現職。

主な研究分野

障害者福祉、障害者虐待防止、差別解消、成年後見制度、意思決定支援、共生社会の実現

■ 宮島 渡 特任教授

【担当科目】
※／認知症ケアの基礎理論／ニーズとイノベーション／福祉アドミニストレーション

これまでの法人及び施設経営の経験と地域包括ケアシステムに向けた取り組みが皆さんの実践研究の一助になれば幸いです。

略　歴

日本大学商学部会計学科卒業、筑波大学院人間総合科学研究科生涯発達専攻カウンセリングコース修了、介護福祉士ファーストステップ研修講師、社会福祉士、認知症介護指導者、社会福祉法人恵仁福祉協会理事長を歴任。一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク代表、NPO法人全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会理事長。

主な研究分野

施設機能の地域分散、施設での中重度対応に向けた取り組み

■ 鶴岡 浩樹 教授

【担当科目】
※／実践の省察と評価／実践研究方法論／福祉人材育成論／インタープロフェッショナルワーク／高齢者支援・医療分野事例研究／在宅療養支援の方法／高齢者保健福祉研究／SWの価値と規範／福祉と疾病

総合医として地域医療に従事して30年目。大学病院、一般病院、診療所、介護保険施設など地域を舞台に様々な設定で、保健・医療・福祉・介護に関わる方々と仕事をしてきました。この経験を活かし、皆さんと共に現場の課題を考えていきたいと思います。

略　歴

1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町民病院、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年、つるかめ診療所開設。2013年より現職。家庭医療専門医。

主な研究分野

地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット

■ 古屋 龍太 教授

【担当科目】
※／地域共生分野事例研究／SW面接技法／発達障害の理解と支援／SVⅡ／SWの価値と規範／障害者支援の理論と方法

ゼミは、地域支援機関・医療機関・行政機関のソーシャルワーカーや、保健師などの多職種が参加しています。今ある専門職の常識がいつまでも正しい訳ではなく、むしろ意識変革が必要です。個々の体験を、経験として言語化し、新しい時代を切り拓く視座と論理を共有できればと思います。

略　歴

和光大学人文学部人間関係学科卒業。1982年より国立精神・神経センター病院に勤務する傍ら、保健所、精神保健福祉センターで相談員、大学で非常勤講師を併任。2008年より現職。日本精神保健福祉士協会相談役、日本デイケア学会副理事長等。精神保健福祉士。

主な研究分野

精神保健福祉、精神医療、計画相談、地域移行、連携協働、メンタルヘルス

■ 須江 泰子 講師

【担当科目】
※／子ども家庭福祉の理論と方法／児童虐待対応ソーシャルワーク／子ども家庭福祉分野事例研究／SVⅡ　他

福祉の現場では、一つではない答えに様々な葛藤を感じることもあります。実践を言語化し、志のある仲間と共に理論や別の枠組みから捉え直すことで、専門職ができることを一緒に考えていきたいと思います。

略　歴

1992年、立教大学文学部教育学科卒業。2003年、筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻修了。社会福祉士、公認心理師、臨床心理士。浦和市役所を経て埼玉県庁入職。身体障害者福祉司、児童福祉施策等に従事後、児童相談所児童福祉司として約20年勤務。東京大学医学部附属病院精神神経科を経て2022年4月より現職。

主な研究分野

子ども家庭福祉、家族支援、児童虐待対応と予防、相談援助技術

■ 兼担教員（本学教員）

小田 美季 教授	障害福祉研究
小原 眞知子 教授	SW理論研究
木村 容子 教授	SW理論研究
藤岡 孝志 教授	子ども家庭福祉研究
贄川 信幸 准教授	研究課題設定論／福祉プログラム評価論総論

■ 兼任教員（非常勤）

■ 村木 厚子 客員教授

【担当科目】 社会保障総論

少子高齢化の進む社会の中で、社会保障をどう財源を確保しながら維持・向上させていくか、また、医療・福祉をどう良好な雇用の場としていくかは重要な課題です。こうした問題について、現役の行政官からホットな政策の動向を学ぶ機会をつくります。

略　歴

1978年、労働省(現厚生労働省)入省、37年以上にわたり勤務。女性労働や障害者雇用などの雇用政策、児童福祉、障害者福祉、生活困窮者対策などの福祉政策を担当。現在は、大学で教鞭をとる傍ら、民間企業の社外取締役を務める。

主な研究分野

女性の職場における地位向上、女性のキャリア形成、働き方改革、障害者の雇用・就労支援、生活困窮者支援など

■ 渋谷 篤男 客員教授

【担当科目】※／地域福祉と地域包括ケアシステム

福祉分野に限らず、医療・保健分野、一般企業での経験を活かした社会人(学生)が、問題意識を明確にし、その課題に向かう学修を支援したい。特に、“起業”を目指す学生に福祉現場のリアリティを伝え、モチベーションを確かなものとし、実行のための方法を共に学習したい。

略　歴

1977年、東京大学教育学部(社会教育)卒業。1995年、日本社会事業大学社会福祉学研究科修士課程修了。1977年より全国社会福祉協議会に勤務し、事務局長、常務理事を歴任。2018年より中央共同募金会常務理事。

主な研究分野

地域福祉、ボランティア、NPO、福祉教育、社会福祉法人など

■ 蒲原 基道 客員教授

高齢者、障害者、児童、さらには、ひきこもりの方などを含めすべてのサポートを要する方々が地域でその人らしく暮らせる社会づくりについて、皆さんと議論できることを楽しみにしてます。また、その際に、現場の実践と自治体の政策形成の両方を考えていきたいと思います。

略　歴

1959年、佐賀県生まれ。1982年、厚生省入省。子育て支援、障害者支援、高齢者支援などの分野を担当。その間、文部科学省にも出向。2018年7月、厚生労働省を退官。
現在／日本社会事業大学専門職大学客員教授、社会福祉法人友愛十字会理事長(非常勤)、日本生命保険相互会社特別顧問。

主な研究分野

障害者(身体、知的、精神)の地域生活支援、障害児の療育支援などの障害分野、高齢者の地域包括ケア(医療、介護、すまい、地域づくりなど)、地域共生社会づくり(分野横断的な支援)

梅津 寛子 講師	リスクマネジメント
江畑 直樹 講師	組織開発
大櫛 重光 講師	職場のメンタルヘルス
木幡 伸子 講師	家族システムズアプローチ
佐藤 香代 講師	司法福祉
園田 巌 講師	保育SW

土屋 佳子 講師	スクールSW
猶木 貴彦 講師	労働法規
松山 毅 講師	SWの価値と規範
宮島 清 講師	※／社会的養護実践論
山田 恵太 講師	成年後見と意思決定支援

研究大学院

社会福祉学研究科

未来を見据えて社会福祉を科学的に追求し先端的課題に取り組む

博士前期課程（修士課程）

カリキュラムポリシー

現代社会の変化に伴って変動する社会・福祉問題と人々の生活ニーズを適切に把握し、その解決に有効な能力を身につけるために以下の方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 社会福祉学の理論や学説並びに歴史背景を認識するための社会福祉基盤科目を設置する。
2. 様々な福祉領域の学際的な視点を養うための多様な科目を設置する。
3. 自らの研究テーマを超えて、社会・福祉問題と人々の生活ニーズを適切に把握するための領域別科目を設置する。
4. 社会・福祉問題と人々の生活ニーズの解決に有効な研究手法を身につけるための研究方法論科目を設置する。
5. 修士論文を作成するために、指導教員を定めて研究指導を行い、2年目には中間報告を行い、様々な領域の教員によるコメントを交え、中間報告以降は、修士論文の作成に至るまで複数名の教員による指導を展開する。

修業年限	2年（昼間）
定員	15名
学位	修士（社会福祉学）

博士後期課程（博士課程）

カリキュラムポリシー

研究課題を科学的に追求する自立した研究能力と豊かな学識を身につけ、社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者・教育者として活躍できる能力を身につけるために以下の方針に基づき教育課程を編成しています。

1. 博士論文を作成するために、博士論文指導を担当する教員の中から主と副の指導教員を定め、複数教員による研究指導を展開する。
2. 社会福祉学の豊かな学識を養うために、必要に応じて博士前期課程科目を履修させる。
3. 自立した研究能力を身につけるために、学会等での研究発表および査読付学術雑誌への投稿・掲載を基本とする。
4. 博士論文を作成するために、各年次にそれぞれの審査項目を設定し段階ごとの論文作成に至るまでの確認を複数教員にて行う。

修業年限	3年（昼間）
定員	5名
学位	博士（社会福祉学）

Q&A

Q 他大学院との交流はありますか？

A はい。大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。

本学を含め13校の福祉系大学院で構成する大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。他大学院の科目を委託聴講したい場合は、指導教員の了解のもと2単位1,000円で10単位を限度として委託聴講できます。

Q 働きながらでも通えますか？

A 福祉現場や教育機関の方など、大勢の社会人学生の方が本学で学んできました。

授業は研究講義や研究演習、論文指導のすべてを木・金・土曜日に集中して開講しています。授業形態も、対面だけでなく、多くの授業がオンライン受講できるため、今まで以上に両立しやすくなっており、遠隔地からの進学も増えています。

Q 教育訓練給付制度は適用されますか？

A 指定講座となっているので、適用されます。

研究大学院（博士前期課程）は、教育訓練給付制度の指定講座となっています。給付条件の対象となる方に費用の20％（上限10万円）が支給されます。

▶詳しくは、P.33をご参照ください。

Q 授業料の分納は可能ですか？

A 可能です。延納制度や奨学金制度もあります。

全額一括納付が原則ですが、分納することも可能です。また、事情により授業料の納付が困難な方を対象とした、授業料及び諸納金等※の延納制度があります。さらに、入学後に学内給費生制度など、さまざまな奨学金制度を受けることができます。
※教育充実費、諸会費

▶学費の分納や奨学金制度については、P.32、33をご参照ください。

研究科長メッセージ

複雑化する現代社会に対応できる高度な専門的職業人及び研究者を育成

小原 眞知子 社会福祉学研究科 研究科長

本学の社会福祉学研究科は、研究教育者、臨床実践家、政策・計画実践家として必要な研究能力を高めると共に、グローバルな視野とローカルな視点を持って、社会福祉学を学際的に取り組む研究と教育を進めることを目的にしています。

そのために、変化する人々や社会のニーズを分析し、組織、機関、地域社会、国際社会の要請に応え、現場に学び、地域社会や広く世界に研究成果を還元するために、理論的水準と実践的能力を備えた高度な専門的職業人及び研究者の育成を目指します。

本研究科では、前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践家の養成、後期課程では、社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践家、優れた実践家・研究者を育成できる教育者を養成します。本学の建学精神とする博愛の精神に基づく社会貢献、社会福祉の理論を窮め、社会福祉実践を常に大切にすること、そして、異なる文化、異なる民族、異なる国籍の人々と共に生きる社会の創出は、時代を超えて今もなお息づいており、人々のウェルビーング(well-being)を追究し、実学である社会福祉学を科学することが本研究科の使命であると考えています。

求める学生像

社会福祉のニーズに常に鋭敏な関心を寄せ、実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感を持つ方が本研究科の求める学生像です。加えて、多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、実践向上への貢献を行うために必要な社会福祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により実践研究を遂行できる方を求めます。その上で、広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的に活躍したいと考える方、生涯にわたり自己研鑽に励もうとする方を歓迎します。

社会福祉学研究科4つの特長

1 実践的な「研究能力向上」に力を注ぐ大学院

今日の社会福祉は、福祉現場での実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、計画と研究を抜きには進められなくなっています。本研究科では、実践研究者としての、あるいは研究的実践家としての「研究能力」を高めることを主眼としています。

2 学びの概要（博士前期課程・博士後期課程）

博士前期課程（修士課程）は、講義・演習・修士論文指導を体系的に学べる、「領域別研究」と「研究方法論」等の科目で構成しています。博士後期課程（博士課程）は、博士論文指導と論文作成に至るまでの予備審査で構成しています。

3 人材輩出

博士前期課程は「社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践研究者及び研究的実践家の養成」、博士後期課程は「社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究者および研究的実践家の養成」「社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者を育成できる教育者の養成」を主たる目的とし、新しい社会福祉系大学の教育・研究モデルの構築を目指しています。

4 福祉プログラム評価履修コースを開設

社会福祉学研究科では、2010年4月より「福祉プログラム評価履修コース」を開設。プログラム評価とは、よりよい社会プログラムを構築し、改善を図り、その存廃や発展の方向性に関する意思決定をするために行われる体系的かつ科学的なアプローチ法のことです。効果的な福祉プログラムの形成・向上に強い影響力をもつプログラム評価者および評価研究者の育成を目指しています。

日本社会事業大学附属図書館

福祉の原典がここに
～戦前・戦後の貴重な福祉関係資料を所蔵・公開～

本学図書館は、中央社会事業協会（現在の全国社会福祉協議会）が1934（昭和9）年に設置した「社会事業研究所図書室」の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・学習・研究に資する国内外の図書資料の整備拡充に努めています。そのため、戦前の貴重な図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵しています。現在蔵書数は26万点に達しています。

博士前期課程（修士課程）

一般教育訓練給付制度
厚生労働大臣指定講座

社会福祉学の理論化と、社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めます。

Point 1

社会福祉全般と研究方法を体系的に履修

社会福祉の歴史や理論をベースとして、専門領域の知識を深めつつ、研究方法を学び、自らの研究に適用させます。

Point 2

指導教員のもとでの徹底指導

それぞれ指導教員が配置され、多様化・細分化する研究テーマの深い指導を可能にしています。研究計画発表会・修士論文中間報告会・修士論文発表・審査会などでの発表が義務づけられ、研究成果の発表方法の指導も行われます。

Point 3

充実した教育環境

研究室やコンピュータを設置した大学院専用の情報計画実習室など環境設備が充実。日本社会事業大学社会福祉学会での発表など新しい社会福祉研究教育を志向しています。

Point 4

福祉関連従事者も在籍

社会福祉現場で働いている人が現職のまま大学院博士前期課程に在籍し、社会福祉現場の課題と社会福祉研究・教育とを結びつけた研究を進めるリカレント教育及び福祉関係職経験者教育システムを実現しています。

博士前期課程2年間の流れ

1年次

4月
- 入学式　● オリエンテーション
- 指導教員決定　● 履修・コース登録

履修方法や学生生活の説明を理解し、
指導教員を決定し、履修登録する。
「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。

5月
- 修士論文中間報告会

2年次生の報告や質疑を聞くことを通して
発表方法や研究方法などを学ぶ。

6月
- 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。
発表者以外の在学生も参加し、学会の運営に協力する。

10月
- 研究計画発表会

研究計画の発表・質疑を通じて、2年次の
修士論文中間報告会までに必要となる事項を確認する。

1月
- 修士論文発表・審査会

2年次生の発表や質疑応答を聞くことを通して
研究方法や発表方法などを学ぶ。

2年次

4月
- オリエンテーション　● 履修登録
- 修士論文題目届提出

修了要件を確認のうえ履修登録し、修士論文の題目を届け出る。

5月
- 修士論文中間報告会

修士論文提出予定者は修士論文の中間報告を行い、
コメント担当を含む教員による質疑応答にて
論文作成の方向性を確認する。

6月
- 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。
発表者以外の在学生も参加し、学会の運営に協力する。

10月
- 修士論文題目変更届の締切

4月に登録した修士論文の題目を大きく変更する場合は
変更届を提出する。

1月
- 学位申請・修士論文提出

修士論文作成ガイドラインを参照しつつ修士論文を提出し、
学位申請を行う。
- 修士論文発表・審査会

修士論文提出者は発表を行い、教員による担当審査を
含む質疑などの審査がなされる。

学位授与 修士（社会福祉学）取得

［ カリキュラムの構造（2022年度参考） ］

社会福祉基盤科目
社会福祉の歴史や理論を深める

- 社会福祉学理論研究・学説史
（教授 村田文世）
- ソーシャルワーク理論研究 Ⅰ
（教授 小原眞知子、木村容子）
- 社会福祉歴史研究方法論 Ⅰ（非常勤講師 松山毅）

領域別科目
専門領域の知識を深める

- 福祉政策研究 Ⅱ
（教授 高橋幸生）
- 地域福祉研究 Ⅰ・Ⅳ
（教授 田村真広・准教授 菱沼幹男）
- 子ども家庭福祉研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
（教授 藤岡孝志、金子恵美・准教授 有村大士、内田宏明）
- 障害福祉研究 Ⅰ・Ⅱ
（教授 小田美季、蒲生俊宏）
- 高齢者保健福祉研究 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
（教授 下垣光、鶴岡浩樹、壬生尚美、森千佐子・
准教授 梶原洋生、永嶋昌樹）
- アジア社会福祉研究 Ⅰ
（准教授 ヴィラーグ ヴィクトル）

研究方法論科目
福祉実践を変える力を身につける

- 社会福祉学研究方法論概論（研究科長他）
- 研究課題設定論 Ⅰ・Ⅱ
（教授 蒲生俊宏、村田文世・准教授 ヴィラーグ ヴィクトル、
贄川信幸）
- 社会福祉調査研究法基礎論
（教授 竹内幸子・准教授 有村大士、贄川信幸）
- 実践研究のための量的データ分析方法論
（教授 竹内幸子・准教授 有村大士・非常勤講師 朴堯星）
- 実践研究のための質的研究方法論
（講師 新藤健太）
- 福祉プログラム評価論総論
（准教授 贄川信幸）
- 福祉プログラム評価論各論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
（講師 新藤健太・非常勤講師 大森正博、平岡公一、源由理子）
- 福祉プログラム評価特別講義 Ⅰ
（准教授 贄川信幸）

専門英語科目
国際的視野を持ち、海外文献を読みこなすための専門英語を学ぶ

- 社会福祉学専門英語 Ⅰ・Ⅱ
（准教授 ヴィラーグ ヴィクトル・
非常勤講師 ウィキンズ マシュー ヘンリー）

研究演習
演習による事例検討や研究方法、個別指導により考察を深め、論文としてまとめる

- 社会福祉学研究演習 Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（※）
- 調査データ分析法演習
（教授 竹内幸子・准教授 有村大士・講師 新藤健太）
- 研究発表論演習（※）
- 論文指導（※）

実習
理論のみならずフィールドを理解し実証を行う

- 社会福祉学研究実習 Ⅰa・Ⅰb（※）
- 福祉プログラム評価実習 Ⅰa・Ⅰb
（准教授 贄川信幸）

（※）2022年度 演習・実習・論文指導 担当教員

教　授：小田美季、小原眞知子、金子恵美、蒲生俊宏、木村容子、
下垣光、竹内幸子、田村真広、鶴岡浩樹、藤岡孝志、
壬生尚美、村田文世、森千佐子

准教授：有村大士、ヴィラーグ ヴィクトル、内田宏明、
梶原洋生、贄川信幸、菱沼幹男

［ 開講科目系列時間配置 ］

大学院の授業を木・金・土曜日に集中。
社会福祉現場との共存・共修がしやすい時間割構成としています。

※一部の科目は、他の曜日に開講する場合があります。

	月	火	水	木	金	土
1時限（9:00〜10:30）				研究講義 研究演習 論文指導		
2時限（10:40〜12:10）						
3時限（13:00〜14:30）						
4時限（14:40〜16:10）						
5時限（16:20〜17:50）						
6時限（18:00〜19:30）						

［ 一部の科目が認定社会福祉士制度研修認証科目に認証（社会福祉士有資格者対象） ］

認定社会福祉士認証・認定機構が認定している「認定社会福祉士」の認定制度の研修として、本学大学院の7科目（12単位）が2021年度より認証されています。2020年9月から認定社会福祉士の取得ルートに、新たに「大学院（教育基幹）ルート」が新設され、在籍している大学院で対象の認証科目を12単位取得した場合に適用されます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご確認ください。
https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/index.html

博士後期課程（博士課程）

新しい社会福祉研究と教育を担う「研究者の養成」を主な目的としています。

Point 1

複数教員による研究指導

大学院生は論文指導教員の中から主指導教員、その他の教員の中から1名を副指導教員とし、それぞれの担当教員から研究指導を受けます。福祉政策、地域福祉、ソーシャルワーク実践、福祉プログラム評価、保健医療福祉、子ども家庭福祉、障害福祉、介護福祉を担当する教員が研究指導科目を開講しています。

Point 2

綿密な指導の下、博士論文を執筆

博士論文の審査については、第1次予備審査から第3次予備審査までのプロセスを経て、最終審査、最終試験を受けます。予備審査では、1年次から3年次までの各段階における研究計画書等の申請書類を提出し、その計画書等に基づき、口述試験が行われ、第2次予備審査に合格した者は博士論文執筆に取りかかります。

Point 3

福祉プログラム評価履修コースの設置

博士前期課程のプログラム評価履修コースに加えて、博士後期課程では福祉プログラム評価の知識を養うと共に指導教員の共同研究や外部資金を活用したプロジェクト研究に関わり、プロジェクトマネジャーの経験を通して自立した評価研究者としての研鑽を積みます（福祉プログラム評価履修コースの詳細はp.25をご参照ください）。

Point 4

共同研究員として研究プロジェクトに参加

本学社会事業研究所が行う研究プロジェクトに共同研究員やリサーチ・アシスタントとしての登録を経て、海外の社会福祉研究及び国内の各種社会福祉調査、社会福祉研究プロジェクトに参加し、研究を深めると共に、社会福祉に関する先駆的・実践的研究活動を実現します。また、日本学術振興会「特別研究員他」の獲得に向けた経費の補助を行う等、研究者が広い視野をもって福祉の研究・実施に取り組める環境が整っています。

Point 5

研究成果を論文にまとめ、学会で発表

大学院生は研究指導の成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿する他、その内容を社会福祉学会など関係学会で報告、発表することとしています。

博士後期課程3年間の流れ

1年次			2年次			3年次			
4月	6月	12月～1月	4月	6月	12月～1月	4月	6月	11月～2月	2月
● オリエンテーション ● 指導教員決定 ● 履修・コース登録	● 学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）	● 博士論文第1次予備審査	● 博士論文第1次予備審査通過後の発表	● 学内学会（同左）	● 博士論文第2次予備審査	● 博士後期課程論文発表会	● 学内学会（同左）	● 博士論文第3次予備審査	● 最終審査及び最終試験〈博士論文最終審査〉
履修方法や学生生活を理解し、研究テーマ、要点及び主指導教員、副指導教員を決定し、履修登録する。「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。	大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在学生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。	【審査項目】 研究計画書、先行研究レビューについて ①研究目的とその意義の明確さ ②先行研究レビューの網羅性、批判的視点及び研究目的との関係 【口述試験】 1）プレゼンテーション：研究計画と先行研究レビューの概要を報告する 2）討論、質疑応答 3）審査委員：主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名	博士後期課程2年次4月に実施する博士後期課程論文発表会にて、第1次予備審査における指導事項を踏まえた報告を行う。論文発表会では、研究計画と先行研究レビュー及びこれまでの成果について発表を行う他、第1次予備審査における指摘事項とそれに対する対応を明らかにする。報告にあたり、主指導教員、副指導教員の指導を受けた上で発表する。		【審査項目】 研究計画書について ①研究計画全体の科学性、整合性 ②翌年度10月またはその次の5月までに完成する可能性 【口述試験】 1）プレゼンテーション 2）討論、質疑応答 3）審査委員：主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名	専任教員と在学生は全員参加する。		【審査項目】 研究論文について ①研究目的の明確さと重要性 ②研究方法、分析方法、論述の適切さ ③研究結果のオリジナリティと社会的意義 【口述試験】 1）プレゼンテーション 2）討論、質疑応答 3）審査委員：審査委員5名	【審査項目】 研究論文について ①研究目的の明確さと重要性 ②研究方法、分析方法、論述の適切さ ③研究結果のオリジナリティと社会的意義 〈最終試験〉 【審査項目】 ①研究課題を科学的に追求する自立した研究能力 ②社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究能力 ③社会福祉学の豊かな学識
● 博士後期課程研究論文発表会 2年次生の発表および質疑応答を聞き、研究方法や発表方法を学ぶ（発表者は第1次予備審査合格者）。									

学位授与 博士（社会福祉学）取得

入学 → 博士論文第1次予備審査（口述試験：プレゼンテーション、研究計画と先行研究レビューの概要報告、討論、質疑応答） → 研究論文発表会（第1次予備審査の指摘事項などを踏まえた研究発表） → 博士論文第2次　予備審査（口述試験：プレゼンテーション、討論、質疑応答） → 博士論文第3次予備審査（博士論文審査／口述試験（公開）：プレゼンテーション、討論、質疑応答） → 最終審査

研究指導科目

［ 研究指導科目及び担当者一覧（2022年度）］

研究指導科目の名称	必修単位	自由選択単位	科目担当者
社会福祉学専門研究演習Ⅰa（1年次）	2		教　授　小田 美季 教　授　小原 眞知子 教　授　金子 恵美 教　授　木村 容子 教　授　田村 真広 教　授　鶴岡 浩樹 教　授　藤岡 孝志 教　授　壬生 尚美 教　授　村田 文世 教　授　森 千佐子 准 教 授　有村 大士 准 教 授　贄川 信幸
社会福祉学専門研究演習Ⅰb（2年次）	2		
社会福祉学専門研究演習Ⅰc（3年次）	2		
社会福祉学専門研究演習Ⅱ		2	
社会福祉学専門研究演習Ⅲ		2	
社会福祉学専門研究演習Ⅳ		2	
社会福祉学専門研究演習Ⅴ		2	
社会福祉学専門研究演習Ⅵ		2	
福祉プログラム評価実習Ⅱ		1	准 教 授　贄川 信幸
博士論文指導Ⅰ（1年次）	2		社会福祉学専門研究演習の科目担当者と同じ（同上）
博士論文指導Ⅱ（2年次）	2		
単位数	10		

福祉プログラム評価履修コース

本履修コースでは、社会福祉実践現場はもちろんのこと、行政、国際機関など、様々な領域において、新しい切り口による福祉プログラム評価のアプローチ法を修得することができます。

履修コースの履修プロセスとコース修了後に期待されるキャリアパス

対象者：福祉プログラム評価に関心を持つ学部卒業者、社会福祉実践現場の従事者、アジア諸国の行政・社会福祉関係者、その他福祉プログラム評価に関心を持つ者

博士前期課程入学・プログラム評価履修コース選択

博士前期課程・プログラム評価履修コース・コースワーク
- プログラム評価論 講義科目群
- 研究方法論 講義科目群、専門英語、その他科目
- プログラム評価実習（共同研究、実践現場）
- 修士論文（プログラム評価に関わるもの）

前期課程修了者：福祉プログラム評価者として、行政・社会福祉実践現場・評価関連コンサルテーション企業／NPO法人、国際機関、外国政府、ODA評価関連機関など、または大学などに勤務

博士後期課程入学・プログラム評価履修コース選択

博士後期課程・プログラム評価履修コース・コースワーク
- プログラム評価論 講義科目群*
- 研究方法論 講義科目群、専門英語、その他科目*
- プログラム評価研究のリサーチ・アシスタント、プロジェクトマネジャー、プログラム評価講義・演習のティーチング・アシスタント
- 博士論文（プログラム評価に関わるもの）

後期課程修了者：独立したプログラム評価研究者として行政・社会福祉実践現場・評価関連コンサルテーション企業／NPO法人、国際機関、外国政府、ODA評価関連機関などに勤務、プログラム評価論を教授できる大学教員になる

＊前期課程未履修の者

修了生インタビュー

※掲載されている内容は取材当時（2021年3月）のものです。

様々な分野の経験豊富な方との交流に多くの学びを得た

2018年3月 社会福祉学研究科 博士前期課程修了
株式会社キズキ キズキ共育塾 勤務
松本 優実さん

大学院では「自立援助ホーム利用者における性的リスクと支援の課題について」というテーマで研究しました。当時勤務していた自立援助ホームにて様々な背景を持つ入居者とかかわる中で、特に「性」や「異性」に関わる課題への支援の難しさを感じていました。研究を通して利用者を性的なトラブルから守るための支援システムを提案したいと考え、本テーマを設定しました。様々な分野において、豊富な実践経験をお持ちの先輩方と共に学ばせていただいたことで、常に多角的な視点で物事をとらえることの重要さに気づけたと実感しています。

現在の職場では、不登校や引きこもり、精神疾患や発達障害などの経験のある方の「学びなおし」をサポートしています。大学院で得た「自らの存在を肯定すること」の大切さと、様々な方面からあらゆる可能性を模索し先を見据える体制の構築で、利用者の心の拠り所となれるような支援を目指しています。

研究の視座を活用し支援者を支え実践現場を変えていく

2016年3月 社会福祉学研究科 博士前期課程修了
医療法人 弥生会 勤務
高橋 賢一さん

私の大学院の始まりは本学の専門職大学院。実践を基盤に据えた多くの学びを得る中、研究が現場で抱えている課題をより広い文脈で捉え直すことで、クライエントやスタッフに貢献できると思うようになり研究科の門を叩きました。実践も研究も取り組み方が違うだけで、行き着く先はクライエントやスタッフが集う「現場」であると言えます。

私の研究は、支援者が現場で抱える困難を「苦慮」という概念で捉え成長過程を明らかにすることです。現場では支援者が職務に邁進しながらもストレスに曝され疲弊しています。しかし彼らは、一定の困難やストレスを引き受ける覚悟を持って現場に臨んでいます。このように支援者が抱える苦悩を成長へと結び付けるには何が必要なのかが研究の目的でした。

今、大学院で研究の視座を得たことで、現状の課題を様々な角度から俯瞰することができ、支援者支援や組織改革など実践現場の変革に繋がっています。

大学院での研究を活かし、後進を育てるため教壇に立つ日々

2019年9月 社会福祉学研究科 博士後期課程修了
熊本学園大学 社会福祉学部 勤務
菱ヶ江 惠子さん

学部時代から小児がん経験者への支援についての研究を希望しており、通信制の修士課程を経て本学研究科へ進学しました。小児がん経験者は治療終了後、病気の体験や生活上の困りごとを話せる相手が限られます。そのため、患者会で「仲間」と交流することは貴重な機会になると考え、まずは小児がん経験者が患者会へ参加するプロセスについて研究することにしました。調査を通して、小児がん経験者の方々が「仲間」との出会いや交流を通して刺激を受け「友達」として人生をより楽しく過ごしていることがわかりました。修了後も公的研究費を獲得して、継続的に研究に取り組んでいます。

現在は、地元・九州の大学で教鞭をとっています。クライエントとのコミュニケーションのとり方、面接技法、事例の分析などのほか、ソーシャルワーク実習での学習をサポートしています。研究を通して身につけた論理的思考、ソーシャルワークに関する理論の知識などは指導に役立っています。

地域の子育て支援を発展させるため一念発起いまでも研究を継続

2013年3月 社会福祉学研究科 博士後期課程修了
目白大学　心理学部心理カウンセリング学科 勤務
宇野 耕司さん

児童養護施設で児童指導員をしていましたが、虐待を予防するには地域における子育て支援のさらなる発展が必要と考え、大学院で学ぶ決意をしました。研究内容は、夫婦を対象とした予防的心理教育プログラムの開発評価。子育てには、親密性を基盤とした夫婦関係が必要であること、さらに子育てする夫婦には社会からの支援が必要であり、このような支援関係を夫婦が協力しながら創っていくことを、子育てユニット形成と概念化し、プログラムを開発。プログラム評価の理論と方法を援用し、2回の介入研究によって、プログラムが現実的に適用可能かどうかを検討しました。

現在は、公認心理師や臨床心理士をめざす学生に、福祉分野の臨床心理学を教えています。また、「『新米ママと赤ちゃんの会』の開発評価」に取り組み、産後ケア事業のプログラムとして実践されています。

修士論文題目（博士前期課程）

〈2021年度〉

- A病院の児童虐待予防に関する地域連携の実態調査
- 協働性を高める児童虐待ソーシャルワークに関する研究
  ー家族とのゴール共有をあきらめない道程に焦点を当ててー

〈2020年度〉

- 尊厳あるレクリエーショナル・アクティビティ支援に関する研究
  ー高齢者デイサービスの管理者へのインタビュー調査からー
- 精神疾患のある親とその子どもの支援に関する
  児童家庭相談援助スタッフの自信度と実施度の関連
- 設立初期のヨーク・リトリートの実践と思想の研究
  ～精神障害者をコミュニティにおける生活者として捉えた支援の源流を辿って～
- 児童相談所設置のエキスパートに関する研究
  ー区立児童相談所の支援体制に焦点を当ててー
- 養育支援訪問事業の実践モデル化に必要な要素の探索的研究
  ～民間団体による「育児・家事援助」に焦点を当てて～
- 精神障害者の地域移行・地域定着に向けた支援をピアサポーターと
  協働して実践する―地域事例の分析
  ー当事者との対話によるリカバリー志向理念の浸透に注目してー
- 精神科長期入院からの地域移行支援において、ピアサポート活動を位置づけ、
  有効に機能させるための条件
  ～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける効果的地域移行
  モデルの構築を目ざして～
- フィリピンのろう児の環境の現状と課題

博士論文題目（博士後期課程）

❶：学位　❷：題目

〈2021年度〉

- ❶ 博甲第80号
  ❷ ひとり暮らし高齢者の「意思決定の準備」に関する研究
  ―福祉専門職によるアドバンス・ケア・プランニングの発展―
- ❶ 博甲第81号
  ❷ 「看取りの社会化」を進展させる「高齢者看取り支援」に関する研究
  ―市町村における先進的事業の分析を通して―
- ❶ 博甲第82号
  ❷ がん相談支援センター活用促進要因の探索的研究
  ―施設の取り組み状況に着目して―
- ❶ 博甲第83号
  ❷ The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan

〈2020年度〉

- ❶ 博甲第73号
  ❷ 精神障害者家族への心理教育プログラムの実装を促進するコンサルテーションのあり方　～実施スタッフのコンピテンス向上とチーム作りを支える有効な実装戦略の検討～
- ❶ 博甲第74号
  ❷ 特別養護老人ホームにおける介護福祉職の協働するちからの熟達化に関する研究　ー「他者のフォロー」の学びと実践共同体ー
- ❶ 博甲第75号
  ❷ 発達障害者を対象とした「効果的障害者就労移行支援プログラム」の形成的評価　～プログラム評価を用いた効果モデルの形成・改善～
- ❶ 博甲第76号
  ❷ 精神科長期入院者の退院促進に有効な「地域事業所」と精神科病院との協働のあり方　ー「支援の核」が「支援チーム」に発展する要因に注目してー
- ❶ 博甲第77号
  ❷ 社会福祉領域の制度外ニーズに対応した変革プログラムの形成・発展に有効な事業評価手法の開発　ー民間助成団体による事業評価受託事例へのCD-TEP法の適用とその分析からー
- ❶ 博甲第78号
  ❷ 精神障がいを持つ方の脱施設化に向けたより有機的・体系的な支援システムの構築
  当事者の参画と医療・地域・行政を統合する地域コーディネーションの意義と効果
- ❶ 博甲第79号
  ❷ 介護福祉現場で働く介護福祉士の「キャリアコミットメント」「組織コミットメント」に影響を及ぼす「経験」と「知識」,「スキル」
  ー養成施設を卒業したキャリア初期の介護福祉士を対象にしてー

教員紹介 〈2022年4月現在〉

前 …博士前期課程　後 …博士後期課程

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

■ 小原 眞知子 研究科長 教授 前 後

【略歴】1991年、日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学博士前期課程修了（社会学修士）後、日本医科大学第二病院、医療ソーシャルワーカーを経て、2000年、久留米大学文学部社会福祉学科講師、准教授、久留米大学医療センター地域連携室スーパーバイザー兼務。2005年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了（社会福祉学博士）。2007年、東海大学健康科学部、准教授、教授を経て、2015年より現職。【主な研究分野】ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域
【著書】『統合的短期型ソーシャルワーク―ISTTの理論と実践』（監訳、金剛出版、2014）など

前期課程の方へ

社会福祉実践は理論の両輪で検討する必要があります。前期課程を通して、社会の動向を見据えた重要な研究テーマに取り組み、その成果を社会に還元してほしいと願っています。

後期課程の方へ

後期課程では、社会福祉を実学として客観的にエビデンスを提示し、研究テーマに沿って検証していくプロセスが必要です。各自のテーマを博士論文にする道のりは容易なことではありませんが、貴方の研究が社会に貢献できることを期待しています。

■ 小田 美季 教授 前 後

【略歴】ケルン大学で教育学博士号（Dr.paed.）取得。ドイツからの帰国後、看護大学、福祉系大学などの専任教員を経て、2013年4月に本学着任。【主な研究分野】地域研究（日本とドイツ語圏の社会システムと社会的活動に関する比較研究）【著書】「精神科治療における家族支援」（分担執筆（『海外における家族への行政的，社会的支援の動向：ドイツの家族支援』）、中山書店、2010）

前期課程の方へ

前期課程では、研究をしていくための基礎を身につけるというのはどういうことかを自分自身で経験しながら考え、修了時には「研究の素養がある」状態の第一段階を築けたという実感がもてることを目指してください。

後期課程の方へ

後期課程では、前期課程での基礎習得に加えて、研究に対する自分の時間とエネルギーの捻出できる計画と動機付けを受験前から念入りにしておくことが次の段階へとつながります。

■ 竹内 幸子 教授 前

【略歴】1982年、東京大学理学部物理学科卒業。1987年、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士号取得。理化学研究所、Drexel大学、South Carolina州立大学、東京工業大学でポストドクトラルフェロー後、東京医科歯科大学助手を経て、1999年より日本社会事業大学助教授。2005年より同教授。【主な研究分野】福祉で用いる統計学、理論物理学など

前期課程の方へ

データに基づいた論文を理解し、また、調査結果に基づいて客観的な主張を展開するためには、統計的な考え方や、用いている解析に対する理解が必須です。基本的なところは全員に理解していただきたいと思って授業を担当しています。

■ 田村 真広 教授 前 後

【略歴】筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、教育学修士。筑波大学教育学系、北海道教育大学釧路校を経て、2001年本学に着任、現在に至る。
【主な研究分野】教育福祉論、福祉教育実践論、福祉科学習指導論、学校カリキュラムの歴史と理論
【著書】『福祉科指導法入門』（共編著、中央法規出版、2002）／『あっ！こんな教育もあるんだ』（共編著、評論、2006）／『高校福祉科卒業生のライフコース』（共編著、ミネルヴァ書房、2008）／『いのち輝く』（共編著、ルック、2008）／『希望をつむぐ教育』（共編著、生活ジャーナル、2018）など

前期課程の方へ

子どもの貧困と地域振興、高等学校の教育課程改革、教師教育に研究関心があります。教育福祉と福祉教育の関連を探究するべく、多角的な視野から現実を切り取り、学際的に探究する手法を重視しています。

後期課程の方へ

教育福祉と福祉教育の関連を、歴史的かつ哲学的、学際的に探求します。最新の知見を取り入れつつ独立した研究の成果としてまとめていきます。

■ 金子 恵美 教授 前 後

【略歴】社会福祉法人 二葉保育園二葉乳児院（保育士・ケースワーカー）、日本社会事業大学附属福祉臨床相談室（相談員）を経て1998年より本学勤務。2004年4月1日から9月30日まで英国サザンプトン大学客員研究員。2015年、東洋大学大学院福祉デザイン研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了（ソーシャルワーク博士）。【主な研究分野】家庭支援、地域支援ネットワーク、保育・養護【著書】『家庭支援論』（編著、全国社会福祉協議会、2011）など

前期課程の方へ

今日の子どもと家庭に生じている多様な問題は、個々の現象への対応で解決できるものではなく、多様な要因が複合的に絡み合って累積するプロセスとしてとらえ、包括的支援を検討する必要があります。

後期課程の方へ

子どもの貧困・虐待は、子どもと親がウェルビーイングへの意欲や将来展望を持てず、諦めや社会への不信の表出、関係を閉ざすところに最も大きな問題があります。ソーシャルワークがいかに介入するかが研究課題です。

■ 蒲生 俊宏 教授 前

【略歴】筑波大学博士課程心身障害学研究科中途退学。国立秩父学園（国立知的障害児施設）指導課（厚生教官・児童指導員）。日本社会事業学校専任教員（実習主任）を経て日本社会事業大学社会福祉学部教員。【主な研究分野】日本知的障害関係施設史研究・施設福祉と従事者（養成）・障害者福祉と障害者教育の歴史【著書】第四章 福祉施設における学校教育の補完とその独自性」中村満紀男（編著）『日本障害児教育史[戦後編]』（分担執筆、明石書店、2019）／「久保寺保久」津曲裕次（監修）『天地を拓く 知的障害福祉を築いた人物伝』（共著、日本知的障害者福祉協会、2013）／『知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史』（分担執筆、滝乃川学園、2011）など

前期課程の方へ

日本知的障害関係施設史研究を中心に、社会事業や特殊教育の歴史に学びます。現場に残されている一次史料（データ）に向き合い、そこから何が見えてくるのかを共同討議したいと思います。

■ 鶴岡 浩樹 教授 前 後

【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県藤沢町民病院内科、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年つるかめ診療所開設。2013年より現職。【主な研究分野】地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携【著書】『地域デザイン思考』（共著、北樹出版、2020）／『介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント』（共著、中央法規、2019）／『こうすればうまくいく在宅緩和ケアハンドブック第3版』（共著、中外医学社、2019）／『医学概論』（共編、ミネルヴァ書房、2021）

前期課程の方へ

地域医療に関わる研究は現場に焦点を当てます。疾病の他、患者と家族、それを支える地域や社会など研究対象は広範囲です。量的研究、質的研究、ミックス法など多角的なアプローチを駆使し現場の不思議に迫ります。

後期課程の方へ

前期課程で身につけた知識、技術、価値観を高められるよう医学研究の立場から助言します。研究課題を多角的な視点で見つめ、エビデンスに基づく論理的思考を磨き、現場のための研究者を育みたいと思います。

■ 藤岡 孝志 教授 前 後

【略歴】九州大学大学院教育学研究科博士課程（教育心理学専攻）単位取得退学。博士（人間学）。日本社会事業大学助教授を経て、現職。【主な研究分野】子ども家庭福祉領域の諸課題。子ども虐待、不登校、支援者支援などの臨床研究。【著書】『不登校臨床の心理学』（誠信書房）／『アクティブに生きる－自己活動の心理学－』（編著、ソフィア）／『保育・教育ネオシリーズ わかりやすい社会福祉』（共著、同文書院）／『愛着障害と修復的愛着療法－児童虐待への対応』（訳著代表、ミネルヴァ書房）／『愛着臨床と子ども虐待』（ミネルヴァ書房）など

前期課程の方へ

臨床的な観点から子ども家庭福祉領域の実践的な課題を深めていきます。取り上げる課題は、子ども虐待、トラウマ、愛着臨床アプローチ、家族支援、支援者支援（共感疲労）、不登校、非行、いじめ、発達障害など。

後期課程の方へ

子ども家庭福祉領域の課題について、臨床的な観点から解明します。テーマを掘り下げ、国内外の先行研究を概観し、研究目的の独自性を明確にします。その上で適切な方法論を検討し、実証的な研究へと展開します。

■ 木村 容子 教授 前 後

【略歴】1993年、関西学院大学大学院社会学研究科博士前期課程修了（社会学修士）。1995年、（米国）コネチカット大学ソーシャルワーク大学院修士課程修了（Master of Social Work）。2010年、関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程修了（博士・人間福祉）。社会福祉法人愛和会・中筋児童館館長、京都光華女子大学准教授等を経て、現職。【主な研究分野】子育て支援、社会的養護、ソーシャルワーク実践理論・方法論【著書】『被虐待児の専門里親支援―M-D&Dにもとづく実践モデル開発―』（相川書房、2012）／『子ども家庭福祉＜第3版＞』（共編著、ミネルヴァ書房、2021）／『ソーシャルワーク論』（共編著、ミネルヴァ書房、2019）など

前期課程の方へ

自身の研究においてソーシャルワークのどのような価値と理論をもって事象を説明立てるのか、あるいは実践のあり方等を実証していくのか、社会に対するアカウンタビリティを果たしうる研究の基礎力を養いましょう。

後期課程の方へ

ソーシャルワークの価値や実践理論等理論的枠組みをもって、客観的にエビデンスを導く実証的なソーシャルワーク研究を志向していきましょう。そのためのクリティカルな思考や研究方法を習得する個別指導やピアの良さを活かした授業・ゼミを行っていきます。

■ 下垣 光 教授 前

【略歴】日本大学大学院博士後期課程満期退学。1987年から1996年まで聖マリアンナ医科大学病院神経精神科において診療技術員として痴呆性老人デイケア及び家族支援を行う。1996年より本学社会福祉学部の教員となり、現在に至る。【主な研究分野】認知症高齢者の支援（直接援助における対応、在宅介護、家族援助）、高齢者のグループワークの方法論、認知症高齢者の環境を活かした支援（特に環境づくり）、認知症の普及啓発などによる地域支援、地域包括ケアシステムにおける医療・保健・福祉の連携
【著書】『写真で見せる回想法』（共編著、弘文堂、2004）／『PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル』（共編著、中央法規出版、2010）／『在宅で暮らす認知症のある人のためのケアプラン作成ガイド』（編著、中央法規出版、2013）など

前期課程の方へ

高齢者福祉の特に認知症に関連する領域における福祉・介護の領域の研究は、現実を変えていく実践につながるものが求められます。内外の先行研究の検証及びフィールドワークによる実証的な研究の指導をしていきます。

■ 壬生 尚美 教授 前 後

【略歴】関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了、博士（臨床福祉学）を取得。特別養護老人ホームの介護職員等を経て、中部学院大学短期大学部、大妻女子大学にて介護福祉士養成教育に携わり2017年4月より現職。【主な研究分野】高齢者福祉施設介護の歴史、介護福祉実践方法、介護福祉教育など【著書】『戦後高齢社会基本文献集解説・解題』（共著、日本図書センター、2007）／『事例で学ぶ生活支援技術習得』（共編著、日総研、2008）／『特別養護老人ホームにおけるケアの実践課題』（単著、ドメス出版、2017）／『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ』（共編著、中央法規出版、2019）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）

前期課程の方へ

介護を取り巻く状況は厳しく様々な課題が顕在化しています。各自の問題意識を、講義・演習を通し価値あるものに高め、掘り下げ発展させることで、今後の介護の質を高める実践に資することを期待しています。

後期課程の方へ

特に高齢者介護福祉の直接支援に関連した実践研究を探究します。各自の研究課題を十分練り上げてください。研究のための研究ではなく、社会に貢献できる実践に役立つ研究成果を期待しています。

■ 村田 文世 教授 前 後

【略歴】1983年、東京女子大学文理学部史学科卒業。外資系企業勤務等を経て、2007年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士課程修了（社会福祉学博士、社会福祉士）。九州看護福祉大学専任講師、准教授を経て2013 年 に本学着任、現在に至る。【主な研究分野】社会福祉政策（サービス供給論）、公私協働論、民間非営利組織論
【著書】『福祉多元化における障害当事者組織と“委託関係”』（ミネルヴァ書房、2009、第7回日本社会福祉学会奨励賞受賞）、『社会福祉への招待』（分担、放送大学教育振興会、2016 ）など

前期課程の方へ

福祉多元化に伴い多様な民間組織がサービス供給主体となるなか、NPOでは組織や事業活動の変容等の課題も顕在化しています。“官から民へ”の政策動向が福祉サービスに与える影響、従来の枠組みを超えた社会福祉法人やNPO法人等の福祉経営を研究領域としています。

後期課程の方へ

①研究課題に関する概念やキーワードの明確化、②先行研究の体系的整理、③理論枠組の構築、④研究方法の検討、⑤調査等の実施、⑥論文執筆の過程を通して、理論と実践の矛盾、政策が実践に及ぼすコンフリクト等、社会福祉の本質に迫る社会福祉研究者の育成を目指します。

教員紹介 〈2022年4月現在〉

前 …博士前期課程　後 …博士後期課程

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。

■ 森 千佐子 教授　前 後

【略歴】九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学後、博士（社会福祉学）を取得。筑波大学附属病院等で看護師として勤務した後、看護教員を経て、介護福祉士養成教育に携わり、2017年より現職。【主な研究分野】高齢者支援、介護者支援、多職種連携、介護福祉教育【著書】『介護予防の健康科学－高齢者・障害者のライフスタイル研究－』（共著、不味堂出版、2008）／『人間関係ハンドブック』（共著、福村出版、2017）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）／『社会福祉士シリーズ　相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』（共著、弘文堂、2020）など

前期課程の方へ

疑問や関心のある事柄を深く掘り下げ、解明するための理論や方法など研究の基礎を修得し、事象を論理的に多角的視点でとらえることが重要です。社会福祉・介護福祉の実践につながる研究成果を期待しています。

後期課程の方へ

高齢者をめぐる課題を中心に、これまでの研究成果を発展させながら、社会福祉・介護福祉に関する創造的・独創的な研究への取り組みを支援します。研究成果が社会貢献につながることを期待しています。

■ 有村 大士 准教授　前 後

【略歴】日本子ども家庭総合研究所　子ども家庭福祉研究部　主任研究員。【主な研究分野】子ども家庭福祉。児童相談所、市区町村における子ども虐待対応、児童福祉施設など【著書】『ファミリー・グループ・カンファレンス：子ども家庭ソーシャルワーク実践の新たなモデル』（共訳、有斐閣、2005）／『子ども虐待（新版）』（共著、有斐閣、2008）／『一時保護所の子どもと支援』（共著、明石書店、2009）／『子ども家庭福祉の世界』（共著、有斐閣、2015）／『子ども家庭福祉』（共編著、ミネルヴァ書房、2016）など

前期課程の方へ

ゼミにおける受講生、及び教員との対話を通して、考えを深める作業を大事にしてもらいたいと思います。研究テーマに向き合い、考える作業を進める中で、自分自身の「考える」意味や意義も変わってくることと思います。こだわりと柔軟さは一見矛盾するようですが、共に大切なものです。

後期課程の方へ

自立した研究者として、考える時間と過程を大切にしてください。
文献を整理し、論文の焦点を絞る過程では、自分自身の持つ価値観や研究の意味に迷うことも多いことかと思います。自分自身が対象の本質を捉えているのかを問い研究の社会的意義を見失わずに研究を深めていただきたいと思います。

■ 梶原 洋生 准教授　前

【略歴】新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科准教授を経て現職。【主な研究分野】福祉法学、司法福祉【著書】『福祉と医療の法律学』（インデックス出版、2001）／『ホームヘルパーの医療行為』（共著、一橋出版、2002）／『介護福祉のための法学』（編著、弘文堂、2008）

前期課程の方へ

高齢者保健福祉の関連法について学び、解釈の論理について理解を深める。自己の課題とする法現象を体系的に考究する。係る法は多岐にわたるが、法の趣旨並びに法理を探り、その齟齬や制度リスクを研究する。

■ 贊川 信幸 准教授　前 後

【略歴】2008年、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士（保健学）。NPO法人地域精神保健福祉機構（コンボ）研究員、本学非常勤講師を経て、2009年より現職。【主な研究分野】精神障害当事者と家族のリカバリーに向けた支援プログラムの開発と改善、実践家のエンパワメント【著書】『心理社会的介入プログラム実施・普及ガイドラインに基づく心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット』（分担著、NPO法人コンボ、2011）／実践家参画型エンパワメント評価の理論と方法（共編著、日本評論社、2019）など

前期課程の方へ

文献の批判的抄読およびプログラム評価の理解を通して、福祉課題と要因の分析、解決策の検討方法の体系的な習得を目指します。精神保健福祉分野を主専門としますが、社会福祉諸領域の課題にもアプローチします。

後期課程の方へ

博士前期課程で扱う内容をさらに掘り下げます。とくに文献の批判的抄読は海外の研究を広く扱い、国際的にも発信できる研究能力を身につけた研究者を目指して指導します。

■ ヴィラーグ ヴィクトル 准教授　前

【略歴】東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業、学士（文学）。本学大学院前期／後期課程修了、修士／博士（社会福祉学）。本学社会事業研究所共同研究員、東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターフェロー、日本学術振興会特別研究員、長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科／大学院人間社会学研究科社会福祉学専攻講師を経て現職。国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア太平洋地域会長補佐、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）理事などを経験。【主な研究分野】多様性に対応したソーシャルワーク、国際社会福祉、グローカルソーシャルワーク、グローバルソーシャルワーク教育【著書】『多様性時代のソーシャルワーク：外国人等支援の専門職教育プログラム』（単著、中央法規、2018）／『新「世界の社会福祉」第12巻：国際社会福祉』（共著、旬報社、2020）／『Global Agenda for Social Work and Social Development: Strengthening Recognition of the Importance of Human Relationships』（共著、IFSW、2020）／『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』（単著、中央法規、2021）／『国際ソーシャルワークを知る：世界で活躍するための理論と実践』（共著、中央法規、2022）／『新「MINERVA社会福祉士養成テキストブック」第6巻：ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』（共著、ミネルヴァ書房、2022）／『Remaking Social Work for the New Global Era』（共著、Springer、2022）など

前期課程の方へ

常にグローカルな視点と多様性の視点を念頭に、社会福祉的な課題及びソーシャルワーク実践について、国際的にも通用する学術研究に求められる、「当たり前」や「常識」に挑戦し続けるクリティカルな思考と、科学的なエビデンスに基づく論理性を持ち合わせながら、一緒に探求していきましょう。

■ 内田 宏明 准教授　前

【略歴】東洋大学大学院博士後期課程単位取得退学。養護老人ホーム相談員、障碍者就労支援員、スクールソーシャルワーカー、長野大学実習助手、法政大学実習指導講師、飯田女子短期大学准教授を経て現職。【主な研究分野】スクールソーシャルワーク、学校福祉、子どもの権利【著書】『再構児童福祉―子どもたち自身のために』（共著、筒井書房、2014）／『まちいっぱいの子どもの居場所』（共編著、子どもの風出版会、2019）／『入門スクールソーシャルワーク論』（編著書、ミネルヴァ書房、2022）など

前期課程の方へ

「子どもの権利」擁護を焦点として、スクールソーシャルワークの地域展開、学校福祉論の研究を進めている。また、社会福祉の原理論についても学びを深めたいと考えている。

■ 菱沼 幹男 准教授　前

【略歴】1994年、本学社会福祉学部卒業。2001年、本学大学院博士前期課程修了。2010年、本学大学院博士後期課程修了（社会福祉学博士）。社会福祉協議会職員、高齢者デイサービスセンター生活相談員、大妻女子大学実習講師、文京学院大学助教等を経て現職。社会福祉士・介護支援専門。【主な研究分野】地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク【著書】『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共編著、中央法規出版、2014）／『福祉のまちづくりの検証』（共著、彰国社、2013）など

前期課程の方へ

国は地域共生社会の実現に向けて包括的支援体制の構築を目指しています。この具現化のためにはコミュニティソーシャルワークの機能が重要であり、実践現場における課題解決の方策を追求していきます。

学　費

1年 標準修業年限　福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

	費目		1年次
学費等	入学金		282,000
	授業料（全納）		535,800
	（分納×2）		267,900
	教育充実費		300,000
	諸会費		3,000
	合計（全納）		1,120,800
	合計（分納）	前期分	852,900
		後期分	267,900

2年 長期履修の場合　福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

	費目		1年次	2年次	合計
学費等	入学金		282,000	—	282,000
	授業料（全納）		267,900	267,900	535,800
	（分納×2）		133,950	133,950	535,800
	教育充実費		300,000	200,000	500,000
	諸会費		4,500	—	4,500
	合計（全納）		854,400	467,900	1,322,300
	合計（分納）	前期分	720,450	333,950	1,322,300
		後期分	133,950	133,950	

●入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
●授業料はスライド制を導入しており、在学中に授業料の改正があった場合には、授業料の額を変更することがあります。

通信教育科社会福祉士養成課程の併修

通常より安価に社会福祉士国家試験受験資格を取得することができます。
併修を希望する方は、専門職大学院の合格後に入学許可証の写しを添付して募集要項にしたがって通信教育科に出願してください。

	費目	一般養成課程	短期養成課程
受講料	レポート添削料	48,000	20,000
	実習費	60,000	60,000

●入学選考料、入学金、授業料及び面接授業参加費は免除されます。
●実習を免除される者の実習費は徴収しません。

博士前期課程（修士課程）　社会福祉学研究科（研究大学院）

	費目		1年次	2年次	備考
学費等	入学金		282,000	—	入学時のみ
	授業料（全納）		535,800	535,800	
	（分納×2）		267,900	267,900	
	教育充実費		200,000	180,000	
	諸会費		4,500	—	入学時のみ
	合計（全納）		1,022,300	715,800	
	合計（分納）	前期分	754,400	447,900	
		後期分	267,900	267,900	

※本学学部の卒業生で本大学院博士前期課程へ入学した者は、入学金を徴収しません。

博士後期課程（博士課程）　社会福祉学研究科（研究大学院）

	費目		1年次	2年次	3年次	備考
学費等	入学金		282,000	—	—	入学時のみ
	授業料（全納）		535,800	535,800	535,800	
	（分納×2）		267,900	267,900	267,900	
	教育充実費		200,000	180,000	180,000	
	諸会費		6,000	—	—	入学時のみ
	合計（全納）		1,023,800	715,800	715,800	
	合計（分納）	前期分	755,900	447,900	447,900	
		後期分	267,900	267,900	267,900	

※本大学院博士前期課程及び専門職学位課程より引き続き入学した者（2023年3月同課程を修了見込みの者）は、入学金を徴収しません。

※本大学院博士前期課程及び専門職学位課程より引き続き入学した者の教育充実費については入学初年度に180,000円を徴収します。

授業料等の延納制度

対象者	条件	種別
大学院・専門職大学院の入学生	特別な事情により授業料及び諸納金※の納付が困難である者	延納（授業料・諸納金※）

※教育充実費、諸会費

奨　学　金

名称	条　件	種　別	金　額	返　還	募　集	備　考
大学院学内給費生制度	学業成績・人物ともに優秀で経済的事由により授業料の納付が困難な学生	給　付	授業料年額と教育充実費を合計した額の全額、半額、または25%	返還義務なし	在学生前年度1月 新入生7月	単年度のみ
障害学生奨学金 給付制度	身体等の障害に起因して修学上特別な経済的支出を必要とする学生	給　付	当該学生の年間教育充実費 相当額を上限とする	返還義務なし	1月	単年度のみ
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第一種	教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与するもので、人物・学業ともに特に優れかつ健康であって経済的理由により修学に困難があると認められる者	貸　与	（月額） ＜博士前期、専門職＞ 50,000円、88,000円から選択 ＜博士後期＞ 80,000円、122,000円から選択	卒業後無利子で返還	4月	貸与期間は最短在学年数 ※特に優れた業績による返還免除もあります（第一種）。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第二種			（月額） 50,000円、80,000円、 100,000円、130,000円、 150,000円から選択	卒業後有利子 （利率上限3.0%）で返還		

●その他の奨学金

地方公共団体、民間団体・企業などでは大学院生を対象にした奨学金制度・研究助成金制度などを行っています。
個人的に調べた奨学金制度で申し込みをしたいものがありましたら、学生支援課まで相談してください。
また、留学生を対象とした奨学金は、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費、公益財団法人平和中島財団などの受給実績があります。
これらの奨学金制度の募集時期は、おおむね4月～5月です。
詳細については、各自出身自治体などの関係諸機関、または民間団体・企業などに問い合わせてください。

福祉マネジメント研究科 対象

専門実践教育訓練給付制度

申請できる方	本学専門職大学院標準修業年限1年で修了する学生で、受講開始日現在で雇用保険の被保険者であった期間が3年以上（初めての方は当分の間2年以上）等条件を満たした方
給付額	(a)訓練費用の50%（年間40万円上限） (b)受講終了日の翌日から起算して1年以内に一般被保険者として雇用されている場合訓練費用の20%を追加給付 ※(a)(b)合計70%（年額56万円上限） ※専門実践教育訓練給付制度は、受講開始（入学）1ヶ月前までに必ず受講申請を終える必要があります。

社会福祉学研究科 博士前期課程 対象

一般教育訓練給付制度

申請できる方	受講開始日現在、在職者であって、雇用保険の被保険者期間が3年以上（初めての方は当分の間1年以上）の方※、前回の教育訓練給付金受給から今回受講開始日前までに3年以上経過していること等一定の要件を満たした方 ※受講開始日時点で一般被保険者または高年齢被保険者でない方は、離職日の翌日以降、受講開始日までが1年以内（適用対象期間の延長が行われた場合は最大4年以内）であること
給付額	訓練費用の20%（年間10万円上限） ※10万円を超える場合は10万円とし、4千円を超えない場合は支給されません。

教育訓練給付制度とは、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。
※申請手続き、支給条件等の詳細につきましては、ハローワークまで問い合わせてください。

進路・就職（継続勤務を含む）

専門職大学院

専門職大学院生の多くは、仕事と学びを両立させながら、研究に励んでおり、修了後も同一職場で勤務を継続しています。転職・就職を希望する場合は、学生支援課と担当教員でサポートします。

研究大学院 博士前期課程

船橋市／青梅市立総合病院

研究大学院 博士後期課程

佐久大学／帝京科学大学／Thammasat University

入試概要

福祉マネジメント研究科（専門職大学院）

◆ 2023年度入試概要

試験区分	受験資格	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
有資格者入試（区分A）	大学卒業相当者で、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保健師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師のいずれかの国家資格取得後、社会福祉関連領域の職場において3年以上の実務経験を有する者	50名（修業年限1年ただし、長期履修生は2年）	小論文 面接審査 書類審査	第Ⅰ期 11/1（火）～11/18（金） 第Ⅱ期 12/19（月）～1/6（金） 第Ⅲ期 1/23（月）～2/17（金） 第Ⅳ期 2/20（月）～3/3（金） Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること（それぞれ11/18、1/6、2/17、3/3の消印有効）	第Ⅰ期 12/4（日） 第Ⅱ期 1/22（日） 第Ⅲ期 3/4（土） 第Ⅳ期 3/12（日）	第Ⅰ期 12/14（水）正午 第Ⅱ期 1/31（火）正午 第Ⅲ期 3/8（水）正午 第Ⅳ期 3/12（日）17:00
一般入試（区分B）	大学卒業相当者で、3年以上の社会人経験を有する者		小論文 筆記試験（語句説明） 面接審査 書類審査			
推薦入試（区分C） 学内推薦入試	3年以上の社会人経験を有する者で次のいずれかに該当する者 ①本学社会福祉学部を卒業見込みで、本学社会福祉学部長の推薦を得た者 ②本学通信教育科（社会福祉士・精神保健福祉士）を卒業した者及び卒業見込みの者で、本学通信教育科長の推薦を得た者		小論文 面接審査 書類審査			
推薦入試（区分C） 指定法人推薦入試	大学卒業相当者で本学が指定する法人の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該法人から推薦が得られる者で、復職が保証されている者					
推薦入試（区分C） 地方公共団体推薦入試	大学卒業相当者で、地方公共団体の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該自治体から推薦が得られる者で、復職が保証されている者					

※有資格者入試、一般入試、指定法人推薦入試の第Ⅳ期については早期に募集人員に達した場合、実施しないことがあります。
※詳細は「2023年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2022年度入試結果

試験区分	志願者	合格者
有資格者入試	43	43
一般入試	2	1
学内推薦入試	3	3
指定法人推薦入試	3	3
地方公共団体推薦入試	0	0
計	51	50

社会福祉学研究科（研究大学院）【博士前期課程（修士課程）】

◆ 2023年度入試概要

試験区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 15名 （修業年限2年）	社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・英語・口述試験	前期第Ⅰ期 9/12（月）～9/26（月） 前期第Ⅱ期 12/15（木）～1/14（土） Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること（それぞれ9/26、1/14の消印有効）	前期第Ⅰ期 10/8（土） 前期第Ⅱ期 2/9（木）	前期第Ⅰ期 10/19（水） 前期第Ⅱ期 2/22（水）
リカレント入学及び福祉関係職経験者入学		社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・口述試験			
学内推薦入学		小論文・口述試験			

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2023年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2022年度入試結果

試験区分	志願者	合格者
一般入学	5	3
リカレント入学	0	0
福祉関係職経験者入学	4	3
学内推薦入学	0	0
計	9	6

社会福祉学研究科（研究大学院）【博士後期課程（博士課程）】

◆ 2023年度入試概要

募集人員	選抜方法	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
社会福祉学専攻　5名 （修業年限3年）	入学者の選抜は、筆記試験（英語・小論文）、口頭試問、論文及び研究計画を総合評価して行う	英語・小論文・口頭試問	12/15（木）～1/14（土） Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること（1/14の消印有効）	2/10（金）	2/22（水）

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2023年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2022年度入試結果

志願者	合格者
1	1

説明会開催日程

大学院案内だけでは伝えきれない両大学院の魅力をお伝えします。
詳細はホームページで確認の上、ご参加ください。

研究大学院　開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月3日(日)	12:30～16:00	説明会・個別相談	オンライン	―
9月11日(日)	12:30～16:00	説明会・個別相談		
10月29日(土)	12:30～16:00	説明会・個別相談		
11月26日(土)	12:30～16:00	説明会・個別相談		
12月10日(土)	12:30～16:00	説明会・個別相談		

専門職大学院　開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
9月2日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
10月1日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	―
	11:45～13:30	説明会・個別相談		―
10月28日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
11月12日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	―
	11:45～13:30	説明会・個別相談		―
12月2日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
12月17日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	―
	11:45～13:30	説明会・個別相談		―
2023年 1月6日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
1月21日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	―
	11:45～13:30	説明会・個別相談		―
2月11日(祝・土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	―
	11:45～13:30	説明会・個別相談		―
2月24日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス

※開催方法がハイブリッドの時は、対面かオンラインを選択できます。

最新情報をSNSでお届け

説明会や入試日程などの入試情報をSNSで発信中！
「キーワード検索」で「@jcsw_pr」を入力

開催時間は変更になる場合があります。
内容等詳細につきましては、本学ホームページ（https://www.jcsw.ac.jp）でご確認の上、お越しください。

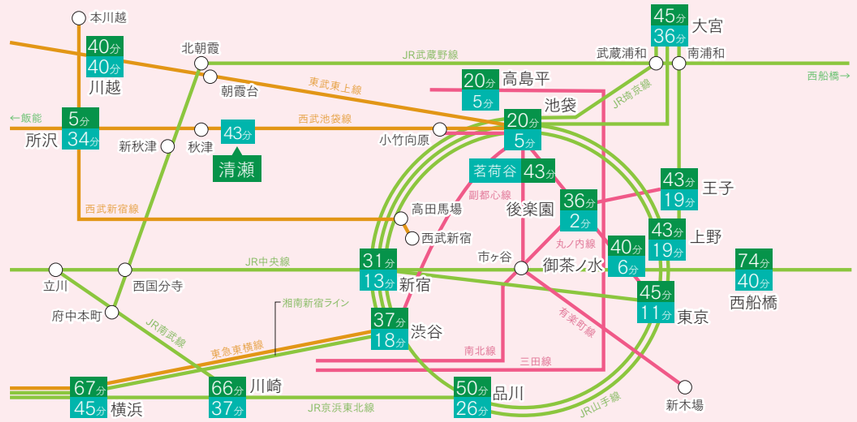
説明会の参加には予約が必要です。
予約はこちらから

Access

各キャンパス最寄駅までの最短所要時間
例）東京駅の場合
45分 清瀬駅まで
11分 茗荷谷駅まで

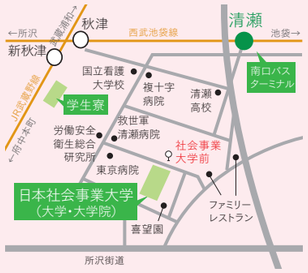
JR線
私鉄線
地下鉄

※最短所要時間は目安です。乗り継ぎ時間・交通状況により変化する場合があります。



清瀬キャンパス（大学・大学院）

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30　TEL.042-496-3080（入試広報課）

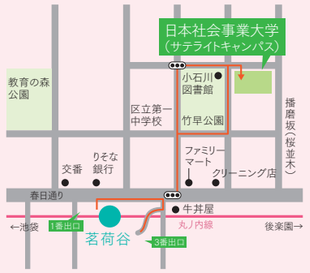


西武池袋線「清瀬駅」下車
↓
南口バスターミナルよりバス乗車
↓
■下里団地行き
■花小金井駅行き
（下里団地経由）
乗車時間：6分
↓
「社会事業大学前」下車 徒歩3分

■久米川駅行き
乗車時間：5分
↓
「東京病院北」下車 徒歩5分

文京キャンパス（サテライトキャンパス）

〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-12　TEL.03-5689-8181



専門職大学院を中心として、一部他の授業で使用しています。
文京キャンパスには駐車場および駐輪場がありませんので公共の交通機関を利用して通学してください。（徒歩5分）

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」下車
↓
駅前より春日通りにでて、後楽園方面へ。
↓
ファミリーマート手前を左折し、1つめの信号を右へ。